公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年11月1日発行（毎月1回1日発行）通巻555号

ハンドボール

11
NOV. 2015 No.555

特集
第20回 男子ジュニア世界選手権
第6回 女子ユースアジア選手権
第44回 全国中学校大会





【表紙写真】第44回全国中学校大会、男子優勝・氷見市立西條中学校の安平光佑選手（左）、女子優勝・福井市明倫中学校の酒井優貴子選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN



あたたかい空へ。あたらしい空へ。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER

国内線のお問合せ 0570-029-222（全国一律料金） 国際線のお問合せ 0570-029-333（全国一律料金） www.ana.co.jp

2016・2019・2020に向けて



公益財団法人 日本ハンドボール協会常務理事 強化本部長　田口　隆

日本代表チーム強化を時系列で区別すると、①リオデジャネイロオリンピック対策、② 2019 女子世界選手権・2020 東京オリンピック対策、③ 2020 年以降の為の強化基盤づくり、となります。これが強化本部の遂行しなければならない重大なミッションであると考えています。

①リオデジャネイロオリンピックに向けて：本誌が発刊される直前の 2015 年 10 月 20 日～ 25 日、名古屋にてリオデジャネイロオリンピック・女子アジア予選が行われ、既に結果は皆様方が知るところであると思います。続いて 11 月 14 日～ 27 日、カタール・ドーハにてリオデジャネイロオリンピック男子アジア予選が開催されます。女子代表チームは栗山監督の指導の下、カザフスタン・中国と競っていた韓国への挑戦権争いにおいては、昨年のアジア大会及び今春のアジア選手権で頭一つリード出来たように思います。今春以降は、デンマーク・ハンガリーへの遠征に加えて、国内にデンマークのクラブチームを招聘しての合同トレーニング・国際親善試合等、実戦でのチーム作りでレベルアップを図ってまいりました。一方、男子代表チームは今春に岩本監督体制がスタートし、短期間でのチーム作りとはなりますが、国内強化合宿を経て 8 月の欧州遠征・9 月からの国内でのトレーニングマッチを行い、トレーニング段階から実戦段階へと強化が進んでいます。さらには予選前に最終調整として数試合のテストマッチを行い、最高のコンディションで悲願達成に向けて「覚悟」を持って臨みます。

② 2019 女子世界選手権・2020 東京オリンピックに向けて：今年 2 月の常務理事会にて正式承認された『2019・2020 強化施策』を実行段階へ移すことが急務であると考えます。現行の日本国内を中心とした強化施策ではなく、海外に強化の舞台を移して、今まで以上に世界との違いを感じやすい、世界と競い合える環境作りが中心となっていきます。既に女子代表チームはデンマーク・ハンガリーを拠点とした強化を推進しています。男子についても早急に拠点を決定して進めてまいります。また、世界選手権・オリンピックという大舞台のプレッシャーに加えて、国内での開催というプレッシャーもハンドボールのみならず過去において色々な競技で見られました。それに対しても対策が必要と考えます。国内での国際試合を企画して “場慣れ” し、観客の声援をエネルギーに変えられるようなタフな精神力をつけさせていきたいとも考えています。

これらを実行する上では、従来からの懸案項目でもあるスケジュール調整なども重要となります。全国の皆様方からのご支援（強化特別支援金）に感謝申し上げるとともに、そのご支援に応えるべく、プラン作りからアクションへ移行し全力で取り組んでまいります。

③ 2020 年以降の為の強化基盤づくりについて：2020 年東京オリンピックが成功すれば将来は安泰かといえば、そうではないでしょう。着実に将来へ繋ぐためには、強化基盤作りが非常に重要になります。“アンダー強化なくして代表強化なし” ではないでしょうか？　男子世界チャンピオンのフランスは今夏のジュニア・ユース世界選手権において、両カテゴリーで世界チャンピオンになっています。他の強豪国も当然ながらアンダーから代表強化が同一ライン上にあります。今夏の女子ジュニアアジア選手権において、女子ジュニア日本代表チームは決勝で敗れはしましたが、ライバル韓国と互角の試合を展開しました。日本には可能性を秘めた素質のある選手がいます。これらの有望なタレントを代表選手へと育てる環境づくりなど、基盤強化を全力で取り組んでまいります。

以上、3 つの大きなミッションを遂行することに加えて、実行した施策で得られた経験・学んだ知識などをタイムリーに指導委員会・NTS 委員会などと連携し、全国の選手・指導者の方々にも発信していきたいとも考えています。

不肖私も、強化本部長という大役を拝命しましたが、小学生・中体連・高体連・学連・日本リーグ・社会人連盟など全組織と連携を密にとり、任を全うしたいと思いますので、皆様方のご協力・ご支援を心からお願い申し上げます。

2016年リオデジャネイロ五輪男子アジア予選

開催期日：11月14日(土)～27日(金)　開催国：カタール・ドーハ

グループA	グループB
バーレーン	イラン
韓国	サウジアラビア
イラク	オマーン
中国	日本
オーストラリア	ウズベキスタン
	カタール

各組の上位2チームが、25日の準決勝、27日の決勝へ進む。

各組3位以下は、25日からの順位戦に出場。

優勝チームはリオ出場権を得る。2，3位は世界最終予選へ廻る。

【グループリーグ日程】

11月14日(土) 15：00 日本―サウジアラビア
11月16日(月) 19：00 日本―カタール
11月18日(水) 15：00 日本―イラン
11月20日(金) 15：00 日本―オマーン
11月22日(日) 17：00 日本―ウズベキスタン

公益財団法人 日本ハンドボール協会　平成27年度組織図

平成27・28年度（公財）日本ハンドボール協会・役員（その2）

役職	氏名	職務分掌
参事	齋藤仁宏	中体連
参事	川原繁樹	高専連盟
参事	半田忠史	車椅子
参事	坂本静男	アンチドーピング
参事	三善信明	マーケティング
参事	今田博之	マーケティング・インターネット
参事	矢田貝拓治	総務（総務）
参事	村松　誠	総務（叙勲表彰）
参事	堀美和子	総務（広報）

役職	氏名	職務分掌
参事	近久紀人	総務（機関誌）
参事	ネメシュローランド	総務（国際）
参事	松本　勇	事業部
参事	藤本　元	普及指導（指導）
参事	山本　繁	普及指導（指導）
参事	杉森弘幸	普及（学校体育）
参事	竹内貞明	普及（小学生）
参事	大原康昇	普及（ビーチ）
参事	小山哲央	普及（マスターズ）

役職	氏名	職務分掌
参事	田中　茂	選手育成
参事	田村修治	強化（情報）
参事	佐久間克彦	強化（医事）
参事	大村　久	競技（検定）
参事	後藤　登	競技（国際）
参事	浜田浩和	審判（指導）
参事	仲田　稔	審判（国際）
参事	花野誠一	審判（総務）
参事	兼子　真	事務局長（総務他）

第20回

男子ジュニア世界選手権

20th Men's Junior Handball World Championship

大会期間：2015年7月19日(日)～8月1日(土)
開催都市：ブラジル・ウベルランジア、ウベラバ

最終順位

優勝：フランス
2位：デンマーク
3位：ドイツ
4位：エジプト
5位：スウェーデン
6位：ベラルーシ
7位：スペイン
8位：ルーマニア
9位：カタール
10位：ブラジル
11位：韓国
12位：チュニジア
13位：アルゼンチン
14位：ポルトガル
15位：ノルウェー
16位：ロシア
17位：セルビア
18位：日本
19位：オランダ
20位：アルジェリア
21位：アンゴラ
22位：ウルグアイ
23位：チリ
24位：パラグアイ

選手名簿

役職	名前	所属	
監督	佐藤壮一郎	(公財)日本ハンドボール協会	大同大学
コーチ	吉村　晃	(公財)日本ハンドボール協会	豊田合成
GKコーチ	北林健治	(公財)日本ハンドボール協会	都城工業高校
ドクター	有田　忍	(公財)日本ハンドボール協会	陽明会小波瀬病院
トレーナー	島　俊也	(公財)日本ハンドボール協会	マッターホルンリハビリテーション病院
分析	永野翔太	(公財)日本ハンドボール協会	琉球大学大学院

背番号	名前	所属	出身校
1	友兼尚也	日本体育大学	北陸高校
2	齊藤　凌	早稲田大学	不来方高校
4	岡松正剛	筑波大学	熊本国府高校
5	藤　勢流	日本体育大学	北村山高校
6	吉野　樹	明治大学	市川高校
7	原田一沙	大同大学	大同大大同高校
8	川島悠太郎	早稲田大学	福井商業高校
9	田中　圭	筑波大学	北陸高校
10	楳木武士	筑波大学	市川高校
11	水町孝太郎	日本大学	西南学院高校
12	西出克巳	日本体育大学	金沢市立工業高校
13	玉川裕康	国士舘大学	浦和学院高校
16	岡本大亮	中部大学	岩国工業高校
18	堀　広輝	筑波大学	市立岐阜商業高校
19	今野利彦	日本体育大学	藤代紫水高校
20	徳田新之介	筑波大学	岩国工業高校
21	安倍竜之介	国士舘大学	不来方高校
22	藤村勇希	中部大学	春日丘高校

参加報告　U-21監督　佐藤 壮一郎

1．はじめに

先ずは、決勝トーナメントに進めなかったことを深くお詫びし、大会の報告をさせて頂きます。大陸予選が始まってから30年振り世界への挑戦、また、2020東京オリンピックを見据えた大事な大会であり、その結果が日本ハンドボール界の今後を占うことも示唆された。

2．大会に向けての準備

	期間	場所	重点強化事項	評価	コメント
①	平成27年3月2日～5日	ANTC	アジア予選メンバーとインカレ活躍メンバーの競争	○	国内で試合に出ている選手が活躍
②	平成27年5月27日～31日	ANTC	選手層アップとベース戦術の浸透	○	U24と互角のゲーム、田中・徳田不参加
③	平成27年6月12日～19日	ANTC・大崎	予選リーグを見据えた長期合宿	○	ポジション2名連戦対応、タフ選手把握
④	平成27年7月3日～7日	名古屋	決勝ラウンドを見据えた短期合宿	○	18名確定、実業団に勝利
⑤	平成27年7月13日～14日	ANTC	大型選手対策と遠征準備	○	必要品準備完了
⑥	平成27年7月15日～18日	ブラジル	時差調整及びアルゼンチンゲーム外人対策	○	初国際試合の選手に効果大

3．大会の成果と課題

	対戦相手	最終順位	成果	課題	対策
①	ブラジル	10位	アウェーの開幕戦を平常心で戦うことができた	ラスト5分の攻防	国際試合の経験増
②	エジプト	4位	ユース時代に負けている相手に引き分けた	ラスト1分の攻防	国際試合の経験増
③	ドイツ	3位	狙い通り退場者を出すことができた	プラス1の理解、相手側守り	攻撃回数抑制、1対1強化、数的有利判断、サイドシュート確率アップ
④	ノルウェー	15位	戦術変更に対応することができた	プラス1の理解、相手側守り	攻撃回数抑制、1対1強化、数的有利判断、サイドシュート確率アップ
⑤	ウルグアイ	22位	連敗を引きずることがなかった	ポストの守り	2対2強化と同じことをやられない対応力
⑥	アルジェリア	20位	相手の狙いを潰すことができた		
⑦	セルビア	17位		戦術対応	様々なDFシステムに対する攻撃の変化

4．最後に

皆さん仕事や所属チームの活動を持ち、日本強化のため微力ながら頑張っているので、形式ばったお礼は省略させて頂きます。

私が思う日本の目指す姿を提言させて頂きます。DFは、バスケットのような能力を身に付け、速攻は、縦にシンプルな交代してもだれもができるように、OFは、日本ラグビーのように大型選手に捕まらず、ボールをつなげれるように、BCもバスケットのように切り替え早く、時にはプレス時にはゾーンをできる能力を身に付ける。最終的には、シュートを決めるか止めるかに掛かっているので、シュートは、やり投げの選手のように素早く鋭く、キーパーセーブは、サッカー選手のように全身で飛び込み、ホッケー選手のように身体周りの反応を世界と互角に戦うためには、世界の強豪国の真似をすれば良いが、本気で勝つためには、日本人の特性を生かしたアイディアのあるスタイル構築が重要と考える。

参加報告 U-21主将　田中　圭

■世界の壁

「世界の壁は誰が作ったのだろうか」「どのくらい高くて厚いのだろうか」「どうすれば越えられるのだろうか」

この言葉は、私が試合を終えバスの中で反省していた時の心の声です。まず、世界の壁は誰が作ったのでしょうか。それは、日本人だと思いました。壁というのはぶつかって初めて分かるもので、越えられそうで越えられない限界を示すものです。ブラジルで開催された世界選手権は約30年ぶりの出場であり、私たちは挑戦者です。未知の世界にも関わらず何かに恐れ怖がっていました。ユース世界選手権のときには日本と世界との差を痛感させられましたが、それは過去の話。自分自身で壁を作っていたのかもしれません。世界は大きくて強くて勝てないと思い込んでいたのかもしれません。

オープニングゲーム対ブラジル、2戦目対エジプト、3戦目対ドイツ。これら大陸王者との試合は世界との差を知りました。ブラジル・エジプトでは1点の重みを再認識させられ、ドイツにはプロとアマチュアの差を見せつけられました。試合内容を見ればユースの頃よりも世界との差は縮まり私たちは成長していました。しかし結果は、1つ順位を落として18位でした。世界と戦えるレベルまでは到達していますが、壁の厚さはかなりあると思ったのが素直な感想です。

日本チームは、DFから速攻とスピードを意識し、OFではテンポを作りながら1対1・2対2の連携をもとにゴールを狙いました。どの試合もよく守り得点し、キーピングも改善することができました。しかしこれは、世界ではスタンダード。これからを踏まえた以上の完成度の高いハンドボールをしています。私たちが目指すべきところは、世界のスタンダードの技術・能力・戦術を持ち、さらに日本人らしいこと・日本人にしかできないハンドボールを目指していかなければ壁を越えられないと思いました。

チーム目標のベスト4を掲げて臨んだ世界選手権で結果を残すことができませんでしたが、手応えや自信をつけることができた大会でした。この思いを忘れず全力を尽くし、2020東京に向けてジュニアメンバーから日本ハンドボール界を盛り上げていきたいです。

■最後に

個人的には、ユースから積み上げてきたことやジュニアで取り組んできたことの集大成として臨んだ大会でした。結果を残せなかったことや明るいニュースを届けることができなかったこと、ユース時の忘れ物を置きっぱなしにしてしまったことがとても悔しいです。思うようにプレーができないなかで、スタッフ・選手に助けられ主将をやり遂げることができました。これからまた新たなスタートを切り、夢や目標に向かって頑張ります。

ご支援・ご声援くださった方々、本当にありがとうございました。



帯同報告

マッターホルンリハビリテーション病院　島 俊也

この度、平成27年7月19日から8月1日にかけて開催された第20回男子ジュニア世界選手権に帯同させていただきましたのでご報告致します。

NTC出発から到着まで約38時間の移動だったが、顕著な時差ぼけ症状を訴える選手はいなかった。現地は冬であり朝夕は肌寒かったが、事前に衣類の注意点を伝えており問題はなかった。日中は30℃近くまで気温が上がったが、湿度が低かったせいか日本よりも過ごしやすかった。デング熱予防のために有田医師より選手、スタッフに虫除けスプレーが配布された。トレーナーサイドで現地の感染症についての調査は行っておらず、今回の対応は大変参考になった。食事は特に問題を感じることはなく、体重が減少する選手はいなかった。予選ラウンドの3戦目と4戦目は体力的、精神的に過酷な時でありパフォーマンスが低下する選手が多かったように思われる。今大会では4戦目のノルウェー戦での敗戦により、予選リーグ敗退が決まってしまったが、この時のコンディション維持が私の課題であると感じた。エジプト戦では左肩関節の脱臼が発生した。症状から脱臼を疑い、ベンチ後方で待機していた有田医師に引き継いだ。現場での整復は困難であり、近医に搬送し、麻酔下で整復された。今回の状況は私だけでは対応が難しく、改めて医師の必要性を痛感した。最終的に18位で大会を終え、8月3日に無事に帰国した。大会期間を通じて、大きく体調を崩す選手はなかった。

大会期間中のコンディション維持はもちろん、大会までのコンディション向上（外傷・障害だけでなく、体力的な部分も含めて）が課題だと感じた。次回帯同につなげたい。

末筆ではありますが、この様な機会を与えていただいた日本ハンドボール協会の皆様をはじめ、トレーナー業務をサポートしていただいた高野内トレーナー、飯田トレーナー、そして佐藤監督、北林コーチ、吉村コーチ、有田医師、分析担当の永野氏に深謝申し上げ、私の帯同報告とさせていただきます。

■予選リーグＤグループ１戦目：７月 19 日（日）
日本　30（15 − 14、15 − 17）31　ブラジル
ホームブラジルとの開幕戦、完全アウェー状態。ブラジルのリーチを生かした 5-1DF にリズムが取れない。しかし、玉川の速攻から徳田の３連続ゴールでリズムを取り戻し、田中のカットインで６対３とリードするが、日本に退場者が出たところでブラジルも息を吹き返す。吉野、原田、椪木の活躍により３点のリードを保つも、大型選手に利き手側からシュートを決められ、ジリジリと追いつかれる。川島のゴールで１点リードで前半を折り返す。
後半、ミスから一気に追いつかれる。徳田、原田の活躍により、再びリードを奪うも、ブラジルの体を張った１対１、ポストなどで同点とされる。藤村の身体を張ったカットインで再び逆転、経験豊富なメンバーを投入するも１点差をもぎ取ることができず開幕戦を白星で飾ることができなかった。
［個人得点］徳田：9 点、原田：6 点、吉野：4 点、川島：3 点、田中・玉川：２点、岡松・藤・椪木・藤村：１点

■予選リーグＤグループ２戦目：７月 21 日（火）
日本　27（17 − 14、10 − 13）27　エジプト
スタート、ポストに吸い寄せられカットイン、シュートブロックで逆速攻を受け２対０とされる。その後、DF の足が動き始め、徳田・田中の速攻で振り出しに戻す。中盤、攻撃のリズムが悪くなり、大会関係者に評価の高い原田を投入すると、小気味の良いロングが決まり、流れを引き戻す。そこから徳田の連続速攻、吉野のロング、原田のステップ、岡本の好セーブにより３点リードで折り返す。
後半スタート、原田のロング、吉野のカットイン、徳田のロング、川島の速攻で 22 対 16 とリードを広げるが、相手のポストや速攻で３点差に詰められる。日本が退場者を出してしまい、相手に速攻で押されるも、友兼のファインセーブで踏ん張る。２枚目の１対１を狙われ失点が続き、藤のロングで応戦するも、再び退場者を出してしまう。１点差の攻防が続き、田中がカットインを決められ、ラスト１分半、サイドシュートを飛び込まれて退場 7mT を決められる。５人の攻撃も点が取れずラスト 30 秒守りきれば勝利だったが、最後、間を割られ 7mT、ノータイム 7mT を決められ同点となる。
［個人得点］徳田：10 点、原田：5 点、藤：3 点、齊藤・吉野・川島・田中：2 点、玉川：1 点

■予選リーグＤグループ３戦目：７月 23 日（木）
日本　24（11 − 20、13 − 23）43　ドイツ
スタート、徳田のスカイで先取点を上げるが、ドイツも１対１でなだれ込み取り返す。藤のロング、岡松の速攻で３対３の同点とし、日本のスピードについて来られず、ドイツは退場者を出す。しかし、日本 DF の間を割られ、ポストへのパスをカットをされ逆速攻で５対９とされる。テクニックミスと退場から連続得点を許し、前半９点差のビハインドで終える。
後半、スタート、ドイツは、ロングシュートを打ち込んでくる。日本も負けじと徳田ロングで応戦、ドイツが退場者出すも、日本がサイドの２対１の判断ミスにより追い上げられない。逆にドイツは、日本のサイド DF の牽制をさばき、サイドシュートを連続で決める。日本も田中、原田が真ん中からステップシュートや水町のサイドシュートで応戦するも、大差の敗戦となった。
［個人得点］田中：5 点、原田・徳田：4 点、藤：3 点、齊藤・岡松・水町・玉川：2 点

■予選リーグＤグループ４戦目：７月 24 日（金）
日本　26（12 − 22、14 − 13）35　ノルウェー
日本の攻撃がシュートミスで終わると、ノルウェーが速攻で真ん中からロングを叩き込む。大型ポストをサイドに置かれ、一人寄せられ、真ん中の利き手側からロングを決められて２対０とされる。日本も負けじと徳田のロング、速攻で３対２とする。しかし、日本のシュートミスから再び真ん中から速攻、左バックの１対１から失点が止まらない。今大会ラッキーボーイの原田がステップ、ロングで応戦するも 10 点差で前半を折り返す。
後半、スタート徳田のロングで反撃の狼煙を上げるが、相手も前半同様、真ん中から速攻や左サイドに展開し攻撃の手を緩めず、引き離しに掛かる。途中出場の堀がロングを連続で決める。相手も疲れが見え始め枠外シュートが増えると、田中のロング、椪木の速攻で諦めないで加点する。日本は、DF を 3-2-1 にし、堀のサイド、徳田のロング、田中、岡松の速攻で巻き返すも 26 対 36 と決勝トーナメントを阻まれる敗戦となった。
［個人得点］徳田：9 点、原田・堀：4 点、田中：3 点、齊藤・岡松：2 点、藤・椪木：1 点

■予選リーグＤグループ５戦目：７月 26 日（日）
日本　32（17 − 10、15 − 9）19　ウルグアイ
岡本の好セーブからエース徳田のカットイン、キャプテン田中の速攻、藤のカットインで３対０と主導権を握る。岡本がサイドシュートをシャットアウトし、藤のロングが決まる。相手は、ポストにボールを集め、12 対 6、日本に退場者が出るも、交代して入った友兼の活躍により流れを渡さない。一方日本は、相手に退場者が出たところを原田の連続ゴールで突き放し前半 17 対 10 で折り返す。
後半スタート、この日絶好調の岡本が前半同様にサイドシュートをシャットアウト。徳田の速攻、岡松カットインが 7mT を誘い、田中がきっちり決めて 19 対 11 とする。相手のタイムアウト後、メンバーを入れ替える。日本はポストを守れず退場者を出すも岡本の好セーブで流れを渡さない。しかし、日本はシュートミスが続き、流れを掴めない。藤村の強引なカットインで 24 対 14。相手が退場者を出した隙に藤村のカットイン、椪木の速攻、水町のカットインで畳み掛ける。日本もポストが守れず退場者が出る。日本が６人に戻ったところを今野のスピード速攻、安部サイドシュートで攻撃の手を緩めず、世界選手権、初勝利を飾った。
［個人得点］田中：5 点、藤・吉野：4 点、齊藤・今野・徳田：3 点、岡松・原田・安倍・藤村：2 点、椪木・水町：1 点

■ President's Cup １回戦：７月 28 日（火）
日本　28（12 − 9、16 − 10）19　アルジェリア
スタート、藤の速攻とロングで先取点を奪うが、相手も日本 DF の隙をつきサイドシュートを決めるも、お互いにミスが続き流れを掴めない。日本は、相手が退場者を出した隙に、岡松のサイド、吉野が速攻とカットインを連続で決める。さらに、田中・水町がステップシュートを決め 11 対８とリードを広げ、岡本の好セーブも続き 12 対９と前半を折り返す。
後半も岡松のサイド、玉川の速攻、西出の 7mT 阻止で波に乗る日本だが、疲れが見え始め、安易なポストパスをカットされ相手に流れが行きかける。しかし、この日絶好調の岡松のサイド、田中のカットインで再び流れが日本に。岡本がロングシュートをセーブし、藤のロング、カットイン。さらに、交代して入った友兼も好セーブ。最後は、流れるようなパス回しから斎藤がポストシュートを決め、危なげない試合運びでプレジデントカップ１戦目を勝利した。
［個人得点］田中：8 点、岡松・藤：5 点、玉川・徳田：3 点、吉野：2 点、齊藤・水町：1 点

■ President's Cup 17-18 位戦：７月 29 日（水）
日本　24（14 − 14、10 − 14）28　セルビア
プレジデントカップ（17 位決定戦）を掛けた、今大会ラストゲーム。スタート、左利きのサイドに飛び込まれ、先取点を奪われる。日本は、吉野の速攻で追いすがるもシュートミスが続きリズムに乗れない。斎藤のサイドシュート、原田の速攻からロング、水町のサイドシュートで食らいつくが、セルビアのポストにチェンジ際を狙われ、失点が止まらない。徳田の速攻で退場を誘い、追い上げムードになり、遂に徳田のロングで同点に追いつき、前半を折り返す。
後半、前半終盤の流れをそのままに畳み掛けたいところだが、相手ゴールキーパーに日本シューターの癖を見抜かれ、シュートミスから逆速攻を決められる。吉野の連続得点、藤村の強引なプレーで相手の退場を誘い、追い上げたいところをサイドシュートが決まらずミスから速攻を決められる。ラスト３分３点差を追い上げる形でオールマンツーに出るも、ボールをコントロールされ、世界選手権最終戦を勝利で飾ることができなかった。
［個人得点］徳田：10 点、吉野：5 点、田中：4 点、齊藤：2 点、原田・水町・玉川：1 点

第6回 女子ユースアジア選手権

6th Asian Women's Youth Handball Championship

大会期間：2015年8月27日(木)−9月3日(木)
開催都市：インド・ニューデリー

【最終順位】
優勝：韓国、**準優勝：日本**、3位：中国、4位：カザフスタン、5位：ウズベキスタン、6位：チャイニーズタイペイ、7位：インド

【選手名簿】

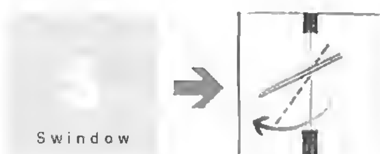
役職	名前	所属	
団長	田口　隆	(公財)日本ハンドボール協会	岐阜聖徳学園大学
監督	石川浩和	(公財)日本ハンドボール協会	佼成学園女子高等学校
コーチ	辻賀奈子	(公財)日本ハンドボール協会	京都府立すばる高等学校
ドクター	貝沼圭吾	(公財)日本ハンドボール協会	国立病院機構三重病院
トレーナー	宿利政生	(公財)日本ハンドボール協会	東京・三鷹／連雀整骨院

背番号	名前	所属	出身校
2	並木梨紗	群馬県立富岡東高等学校	富岡市立富岡東中学校
3	中山佳穂	夙川学院高等学校	夙川学院中学校
4	大松澤彩夏	聖和学園高等学校	仙台市立中田中学校
5	吉田瑞萌	佼成学園女子高等学校	横浜市立岩崎中学校
7	西村美桜里	四天王寺高等学校	宇土市立鶴城中学校
8	南　夏津美	京都府立洛北高等学校	京田辺市立大住中学校
9	澤田のどか	香川県立高松商業高等学校	香川市立香川第一中学校
10	中村風夏	川崎市立高津高等学校	川崎市立西中原中学校
11	金城ありさ	佼成学園女子高等学校	浦添市立港川中学校
12	宝田希緒	茨城県立水海道第二高等学校	土浦第三中学校
13	林　玲花	富山県立氷見高等学校	氷見市立十三中学校
14	相澤菜月	茨城県立水海道第二高等学校	守谷市立けやき台中学校
15	山田美穂	佼成学園女子高等学校	川崎市立西中原中学校
16	西村郁来子	北陸高等学校	福井市立明倫中学校

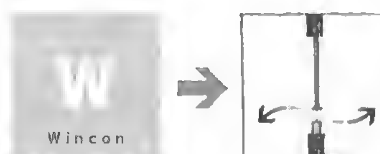


『呼吸する建築』

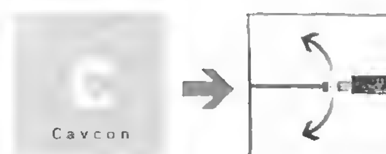
『ナビ ウインドウ 21』 NAV WINDOW 21



Swindow　スウィンドウ



Wincon　ウィンコン



Cavcon　キャブコン

三協立山株式会社 三協アルミ社
営業開発部
〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル18F　TEL(03)5348-0360 http://www.nav-window21.net/



度中に何回か強化合宿を実施して、代表にふさわしい選手を発掘し成長させるなら、韓国を破ってアジアで優勝することは十分可能だと確信します。

【付記】在印日本人の方々が毎試合（10名前後）駆けつけて、選手への手作りの菓子の差し入れなど温かい応援をいただきました（在印韓国人は毎試合50～100名ほどの応援）。大会後、日本大使館で八木大使夫妻と城内外務副大臣が昼食会を催してくださいました。また、今大会にご協力いただきました所属チームの関係者の皆様、日本ハンドボール協会の皆様および関係の方々に改めて感謝申し上げます。

参加報告 U-18女子日本代表監督　石川 浩和

【大会前】 4～7月まで毎月一度、計22泊26日の合宿を実施しました。場所は全て、ANTCを希望しましたが叶わず、佼成学園女子高校でそれぞれ2回行いました。

戦術の精度向上のため、練習と同時に練習試合（東女体大、日女体大、桐蔭横浜大）を計6回実施しました。また、辻コーチ（全般の指導）、貝沼ドクター（6月に参加）、宿利トレーナー（全て参加）、北野GK支援コーチ（3度の指導）、城内ANTCウェイトリフティングコーチ（3度の指導）から、適切な指導をいただきました。ここに改めて感謝いたします。

【大会結果】 今回も韓国と決勝を行い、2位に甘んじたことから、私の指導の未熟さを反省させられましたが、それでも、日韓の差はじりじりと詰まっていると実感しました。

1. 懸念されていたGKは予想以上に好セーブを連発しましたが、それでも阻止率は25％で、韓国の45％に比して差は歴然です（韓国は各カテゴリーにGKコーチがいます）。
2. シュート成功率は韓国66％、日本46％でした。これはノーマークシュートの成否の差にも関連しており、韓国は36本中20本成功（73％）、日本は27本中15本成功（56％）です。
3. 守備は、韓国を含め各国チームからの評価は高く、大会一だったと自負しております。

【今後の課題】 一つは選手の成長です。この年頃は身体の成長が急かつ大で、U-16以降、代表選手以上に、身体・技術・精神の伸長著しい選手が少なからずいるはずで、その情報収集体制の速やかな確立が望まれます。例えば、「ルールを守り、マナー良くしろ」、「日本代表としての自覚を持て」などという基本からの指導に多くの時間を費やしたのは実に残念でした。代表チームに選出されたというだけで満足してしまうような選手が年々増加しています。①大柄でも体幹などがまだ発達段階にあって体力不足の選手は、ゲーム途中でパフォーマンスが激減すること、②体の大小を問わず、ゲームメイクの巧みな選手が必要であること、この二つを教訓とし、今年

参加報告 U-18女子日本代表キャプテン　澤田 のどか

私達、U-18女子日本代表チームは8月27日～9月3日までインド・ニューデリーで開催されました第6回女子ユースアジア選手権に参加させていただきました。

アジア大会優勝の目標に向け4回の合宿を組んでいただきました。自分達よりもスピード、突破力のある大学生の方々と練習試合をさせていただいたり、筋力強化のトレーニングなど本番を想定したりしながら練習に励みました。

予選リーグではスピード、体格差に苦戦しながらも練習してきたアグレッシブなDFからの速攻で多くの点数を取ることができ、1位通過することができました。決勝トーナメントでは、まず中国と対戦しました。序盤は3連取と勢いよくスタートできました。しかし、その後は自分達がミスしたり相手に押し込まれたりして、波に乗ることができませんでした。後半15分には相手に逆転され一進一退の展開になりながらも、23対22で勝つことができました。決勝の韓国戦は、中国戦で自分たちが目指す試合展開には及ばなかったので、最高のパフォーマンスをできるよう気持ちを高めて臨みました。相手のスピード、テクニックに苦しみながらも、相手のミスから速攻に行くなど前半を12対15で食らいつきました。後半も全員で「必ず勝つ」という強い気持ちで挑みましたが、自分達の精神面の弱さから、22対27で負けました。決して勝て







ない試合ではありませんでした。大事な場面で一点取ること、守る力が必要なことを再認識した試合になりました。

U-18の選抜チームに選んでいただき、今まで一緒にプレイしたことのない仲間と1つのチームとなり、合宿、大会を通して多くのことを学ぶことができました。この貴重な経験を生かし、これからも日々精進していきます。

最後になりましたが、先生方、多くの役員の方々、応援してくださった大使館の方々、日本の皆さん、本当にありがとうございました。

参加報告 U-18女子日本代表トレーナー　宿利 政生

今回の所感の第一は、なによりも選手たちの体格差でした。我が日本代表チームは中国・韓国両チームに比べて、身体的に大部分の点でかなり劣っていたと言えます。

身長差はどうにもなりませんが、当たり負けない強さ、スタミナ切れしない逞しさという実質上の差を少しでも縮める努力を継続するしかないわけです。それは、数ヶ月、あるいは1年単位のトレーニングや食事などの実行プランが必要で、各チームの指導者の方々が、それなりの知識と指導力によって、選手たちの（そして保護者たちの）意識を高めなければなりません。今回の選手たちについて言えば、国内合宿や大会を通じて、残念ながらその意識が欠如している選手も結構見受けられました。

特筆すべきは、ANTCウェイトリフティングコーチの城内氏の指導を定期的に受けられたことです。具体的には、プル・ハイプル・スナッチなどのエクササイズを毎回の合宿で取り入れて行いましたが、その結果、所属チームで継続した選手は、脚・腰・背中、肩・腕を中心に全身の筋力と筋量がアップしました。それが少しは実戦に寄与できたのではないかと思っています。

今大会は、試合時間が遅く、選手のコンディション調整に細心の注意を払いました。具体的には、選手の患部の状態に合わせて、硬化した軟部組織の柔軟性の回復や痛みの緩和など、各選手に少なくとも30分以上、ケアを行いました。

提供された食事は、香辛料が強く、油も多いものでした。食欲減退や下痢症状の選手が続出し、日本から持って行きました炊飯器で炊いたお米が活躍しましたが、なかなか選手の下痢が治まらず、薬の処方に貝沼ドクターも手を焼いておりました。

最後に高野内日本女子代表トレーナーに多くをご指導いただきました。感謝申し上げます。

審判報告 国際審判員　太田 智子・島尻 真理子

8月27日から9月3日までの日程でニューデリー（インド：日本との時差は－3時間半）で開催されました、第6回女子ユースアジア選手権に参加してまいりましたので、大会の様子および指導いただいた内容についてご報告させていただきます。

今大会、当初予定されていたエントリーチームは8チームでした。しかし、大会直前にイランが棄権し7チームとなりましたが、当初の予定通り2グループに分かれて総当たり戦を行い、その後、決勝トーナメント・順位決定戦を行う方式で開催されました。

ノミネートされたレフェリーは、バーレーン、サウジアラビア、カタール、イラン、そして日本の5ペアでした。しかしレフェリーサイドも、都合によりカタールとイランがキャンセルし、（通常の国際試合では、少なくとも1ペアはリザーブレフェリーとなりますが）今大会ではリザーブレフェリーを設けず、1日3試合を3ペアで担当するという状況でした。

ノミネートされたレフェリーは、ミニコース（各大会直前に、必ず行われます）に参加するため、8月25日にはニューデリーに到着、翌26日早朝にホテルを出発し、今大会の会場となるインディラ・ガンディー・アリーナ（IGI stadium）にてシャトルランテストを行いました。今回のミニコースでは、ルールテストやビデオテストは行わずシャトルランテストのみでしたが、全員が基準をクリアしました（合格ラインはIHFと同様、男性が9.5ラウンド、女性は8.5ラウンドで、大陸大会以上の大会では、ミニコースの合格ラインを超えた時点で初めて、大会レフェリーとして大会に臨むことになります）。

私たちが参加したこの大会は、高校生というまだ身体的にも発育段階にある選手が主体となりエントリーされているため、150㎝台の選手から180㎝台の選手までと身長や体重差も顕著なものでした。さらに、初めて国際大会（アジア圏の大会ですが）に参加する選手が多く、国際大会といえども、入場や選手紹介、ゲーム中にいたるまで初めての経験だったためか、戸惑うシーンが多く見られました。そのため、ミー

ティングでは、「若い選手がゆえ、レフェリーはルールに基づいた笛やジェスチャーを心掛けなければならない。なぜなら彼女たちは、レフェリーのミスも正しい判定として、全て受け入れるから」「レフェリーは teacher である」「ハンドボールはボールを争うスポーツであり、ユースの女子は純粋にボールを取るためだけに争っているだけである。そのため、触っただけで段階罰を出さない」といった指導がありました。その中でも特に強調していたことは、『ゲームを理解して判定すること』でした。これは、意味もなくフリースローの判定をし、安易に段階罰を判定するのではなく、『なぜ笛を吹いたのか』『なぜ笛を吹かなかったのか』『なぜ罰則を出したのか』『なぜ 7mT を判定したのか』ということを、我々レフェリーが担当しているゲームや一つ一つのプレイが、どういったレベルや内容、現象なのかを理解した上で根拠を持って判定しなければいけないと、ミーティングのたびに話していました。またこの年代を中心に判定が難しいステップに関しては、feeling が必要であり、4 歩以上歩いた後のシュートがゴールに入った場合、ゴールインにするのではなく、状況に応じた判定をしなければならない（例えば、攻撃側の違反であればオーバーステップ、明らかな得点チャンスを防御側が妨害したために 4 歩目を踏んでシュートを打ったのであれば 7mT の判定をしなければならない）という指導を受けました。

最終的に私たちは、予選リーグでは日本チームとは別グループとなるグループＡのゲームを 3 試合、順位決定戦では 5-7 位決定トーナメント・5-6 位決定戦の合計 5 試合を担当させていただきました。ユースの大会といえどもこれからを担う世代が参加する大会で吹笛することは、国内外を問わず、今後の自分たちがノミネートされる様々なカテゴリーの大会や担当するゲームの土台部分になるという想いを持って、担当してまいりました。しかし、100％ミスなく完璧にできたというわけでは決してありません。ミスもありましたし、選手に自分たちの判定を伝えきれなかった部分もあります。ゲーム理解といった点では、選手やコーチと合致しなかった場面もありました。また余談ですが、私たちの担当したゲームの一つが、会場の停電により約 20 分間中断するという経験をしました。外的要因によりゲームが中断するという経験は、初めてのことでしたので、この中断中にいかにして自分たちの集中力を保てるかも、今後の課題として残りました。さらに、インドというハンドボールのみならず、国家としてもこれからの発展が期待されている地で行われる大会に参加した際の、日々の過ごし方や感じ方も課題の一つと言えるのかもしれません。例えば試合会場となった IGI stadium は、収容人数 25,000 人を誇る体育館ですが、フロアやトイレ、観客席、廊下等がとても古く各所で改修をしており、レフェリーの控え室も扉はガラス張りで着替える場所がないという具合でした。一番心配していた体調管理に関しても、衛生上、飲料水や食事に気をつけてはいるつもりでしたが、終盤にお腹の具合を悪くしてしまうという事態もありました。これらの面からも、ハンドボール（ゲーム）以外の面でも、考えさせられた大会となりました。



今大会で収穫できたことはもちろんですが、見つかった課題、不足していた部分…これらのことは、私たち自身が持つ大きな目標に近づき、達成するために、早い段階で解決しなければならないことばかりです。今、言えることは、これら一つ一つを確実に解決し、さらなる課題に向かい合いそれを解決していく。その繰り返しの中で、一歩ずつ確実に前へと進んでいくのみです。そのために今、自分たちにできること、自分一人でもできること、肉体的・精神的に、知識や経験においても徹底的な準備をすること…が必要不可欠となります。そのことを念頭に、今後も現状に満足することなく、そして初心を忘れることなく、日々精進してまいります。

最後になりますが、私たちがこの女子ユースアジア選手権に参加するにあたり、ご理解・ご協力をいただいた日本協会をはじめとするハンドボール関係の皆さま、快く参加を後押ししていただいた職場の皆さま、日々ご指導くださる諸先輩方に、末筆ながら感謝を申し上げるとともに、女子ユースアジア選手権のご報告とさせていただきます。



新刊 ハンドボールスキルアップシリーズ
目からウロコの個人技術
スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著
B5判　144ページ　1,800円+税　発行元 グローバル教育出版
パス、フェイント、ステップワーク、オフ・ザ・ボールといった、ハンドボールに欠かせない個人技術をわかりやすく解説している技術書です。国内一流の指導者による技術解説、さらにトップレベルで活躍する日本人選手のアドバイスも掲載しています。

既刊


目からウロコのシュート術
2,000円+税

株式会社スポーツイベント 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-4-2 TEL:03-3253-5941 FAX:03-3253-5948



戦　評

■予選リーグＢグループ１戦目：８月28日（金）

日本　35（19－11、16－8）19　インド

Ｂグループの初戦は、地元インドと対戦。日本のスタートは、LW南、LB吉田、CB相澤、RB金城、RW山田、PV澤田、GK宝田で、ディフェンスからのスタート。開始59秒で、相澤のカットインで日本が先取点を挙げる。吉田、澤田が連続得点をし、相手のミスから南、相澤の速攻で開始10分７対２とリードする。その後、インドの攻撃に対し、日本は攻撃的なディフェンスを仕掛け、速攻に繋げてペースを作りたいところであったが、再三にわたる審判の不可解な判定に悩まされ、リズムが作れなかった。日本は、メンバーチェンジを頻繁に行い、ようやく20分過ぎから林のカットイン、中山のミドルシュートなどで得点を重ね、前半19対11で終了する。

後半に入り、ディフェンスからの速攻で５連続得点をするという流れが良い時もあるが、ノーマークシュートを連続で外すなどのミスもあった。ラスト５分を切り、山田がシュートを決めて、全員出場、全員得点を挙げることができた。地元の応援、審判の不可解な判定もあったが、なんとか初戦を勝利で飾ることができた。ディフェンスでの連携、速攻への展開など課題も多く見つかった。次のカザフスタン戦に調整して臨みたい。

［個人得点］中山・相澤：6点、西村：4点、大松澤・中村・林：3点、並木・吉田・南・澤田：2点、金城・山田：1点

■予選リーグＢグループ２戦目：８月30日（日）

日本　36（15－11、21－14）25　カザフスタン

予選リーグ２試合目、日本のスタートはLW南、LB吉田、CB相澤、RB金城、RW山田、PV澤田、GK宝田で、ディフェンスからのスタート。立ち上がりからディフェンスから速攻の良い展開を仕掛けたが、シュートミス、ラストパスのミスなど連続でのミスでカザフスタンに先取点を与えてしまった。その後も、ノーマークは作るが、自分たちのミスで相手に得点を許してしまい、中盤に入っても一進一退の攻防が続いた。選手は、慌ててシュートを打って、外してしまうという展開であった。ようやく23分過ぎに金城のロングシュートが４連続で決まって、前半４点リードで折り返した。

ハーフタイムでは、とにかくノーマークを作れているので、慌てないで決めようと後半に臨んだ。南のサイドシュート、山田の速攻などが決まり、徐々に日本のペースに持ち込めた。途中、宝田と交代したGK西村が相手のノーマークシュートを連続で好セーブ。そこから、西村、相澤の速攻などで、一気に得点差を広げた。終盤は、粘り強いディフェンスから速攻の展開が開けたことで、ワンサイドゲームとなった。立ち上がりの悪さが、チームでの経験不足が原因であると考えられるため、試合のない日は、チャイニーズタイペイやウズベキスタンと積極的に練習試合を行い、経験値を上げている。残る中国、韓国戦に向けて、チームの一体感が高まっている。

［個人得点］山田：7点、西村・南・相澤：6点、金城：5点、並木・大松澤・吉田・澤田・中村・林：1点

■準決勝：９月１日（火）

日本　23（13－9、10－13）22　中国

日本のスタートはLW南、LB吉田、CB相澤、RB金城、RW山田、PV澤田、GK宝田で、ディフェンスからのスタート。金城のミドルシュートで先取点を取り、積極的なディフェンスから澤田、山田の速攻で３対０となったところで、中国がタイムアウトを請求する。その後も中国のボールの流れを読んで、良いコンタクトディフェンスで速攻を出すが、慌てたミスから逆に速攻を仕掛けられ、徐々に点差を縮められる。しかし、西村の速攻、沢田の7mT、林のミドルシュートなどで、前半13対９で折り返した。

後半立ち上がりから、相澤のミドルシュート、西村のポストシュートで２連取し、ここから点差を引き離したいところであったが、セットオフェンスでのミスが続き、中国に３連取されてしまう。その後も、執拗に粘る中国の激しいディフェンスの前で、日本のセットオフェンスがリズムを崩し、後半10分過ぎから中国に７連取され、17分過ぎには17対20と３点のリードを許してしまった。日本はタイムアウトを請求し、気持ちで中国の選手に押されているので跳ね返すように激励する。その後、悪い流れを断ち切り、落ち着きを取り戻した日本は、金城のミドルシュートから３連続得点を挙げ、21分同点に追いついた。その後、一進一退の攻防が続くが、再三に渡り好セーブをしたGK宝田やGK西村の好セーブに救われた。ラスト３分、中村が7mTを獲得し、澤田が落ち着いて決め23対22と１点差でリードした。ラスト１分で日本はタイムアウトを請求し、セットオフェンスの指示を出した。その攻撃は見事に成功するが、勝利を決定する２点差となるノーマークシュートを外してしまう。続く中国の攻撃。ラスト９秒で、中国がタイムアウトを請求。日本は、ゴールスローからの中国の攻撃をオールコートマンツーマンで守るよう指示。フリースローを取り、試合終了。１点差で中国に勝利することができたが、試合の内容は日本の方がいろいろな面で優っていた。しかし、中国選手の勝利への執念に押されて、オフェンスでは逃げた状態でのシュートや、ディフェンスでは強引に押し込んでくるシュートに対し、怯んでしまった面は否めない。選手・スタッフ共に日本代表として、試合することへの自覚と責任を改めて確認して、韓国戦にモチベーションを高めて臨む。

［個人得点］金城：6点、西村：4点、澤田・相澤：3点、南・林・山田：2点、吉田：1点

■決勝：９月３日（木）

日本　22（12－15、10－12）27　韓国

アジアチャンピオンをかけて韓国と対戦。日本のスタートはLW南、LB吉田、CB相澤、RB金城、RW山田、PV澤田、GK宝田で、オフェンスからのスタート。立ち上がり、ディフェンスからの速攻でチャンスを作るが決めることができず、先制点は韓国となった。日本は開始６分でようやく相澤の速攻で得点を挙げる。その後、どちらもミスが多く目立ち、一進一退の攻防を繰り広げる。17分過ぎ、金城のロング、相澤の7mT、速攻で３連取し、８対８の同点に追いつく。すぐに韓国も日本のディフェンスのチェンジミスを誘う攻撃で２連取する。日本もディフェンスからの粘りで、南の速攻で１点差にする。韓国は、ここでチームタイムアウトを請求。取って、取られての展開の中、日本のチャンスでのシュートミスが目立ってしまった。23分過ぎ、韓国に４連取を許してしまい、前半12対15で折り返した。

後半開始すぐに澤田のポストシュートが決まり、日本のディフェンスから速攻という良いリズムに持ち込めたが、シュートに届かずミスで終わることが目立った。セットオフェンスでは、コンビネーションプレーが決まるが、そのディフェンスですぐに韓国に得点を許してしまった。14分過ぎ、韓国に４連取されるが、中国戦に続き、GK西村が好セーブを連続して韓国の流れをくい止めた。17分すぎ、日本はチームタイムアウトを請求。オフェンスのコンビネーションの確認をしっかり行い、再びコートへ。しかし、なかなか攻めきることができず、流れを引き戻すことができなかった。選手は、最後まで諦めずに懸命にプレーしたが、タイムアップを迎えた。６大会連続で第２位という成績に終わった。

［個人得点］南・金城：5点、相澤：4点、中山・西村・澤田：2点、吉田・山田：1点

第44回 全国中学校ハンドボール大会

開催期日：平成27年8月21日[illegible]日（月）
会　　場：花巻市総合体育館

男子：西條中学校、
女子：明倫中学校、ともに初優勝！



最終順位

［男子］　優　勝：氷見市立西條中学校（富山県）
　　　　　準優勝：矢巾町立矢巾中学校（岩手県）
　　　　　３　位：岩国市立岩国中学校（山口県）
　　　　　　　　　小松市立板津中学校（石川県）

［女子］　優　勝：福井市明倫中学校（福井県）
　　　　　準優勝：岩国市立平田中学校（山口県）
　　　　　３　位：四日市市立朝明中学校（三重県）
　　　　　　　　　名古屋市立平針中学校（愛知県）



優秀選手

［男子］
清水裕翔　西條中（富山県）
田上正徳　西條中（富山県）
安平光佑　西條中（富山県）
安倍凜太郎　矢巾中（岩手県）
戸塚　蓮　矢巾中（岩手県）
牧野渓一郎　岩国中（山口）
中谷仁義　板津中（石川）

［女子］
酒井優貴子　明倫中（福井県）
久保奈津季　明倫中（福井県）
竹内琉奈　明倫中（福井県）
田村　碧　平田中（山口県）
岡田彩愛　平田中（山口県）
山本眞子　朝明中（三重県）
浦野詩織　平針中（愛知県）

全国大会を終えて

（公財）日本中学校体育連盟ハンドボール専門部競技部長
齋藤 仁宏

「咲き誇れ！北で夢見し絆の華よ」のスローガンのもと、8月21日から4日間の日程で、岩手県花巻市において開催された第44回全国中学校ハンドボール大会は、中学校チャンピオンを目指す男女各20チームによって熱戦が展開されました。競技面のみならず、人間としての成長を支援する顧問として、学校生活はもとより中学生らしい健全な生活・行動のあり方にまで携わってこられた情熱と信念が、会場ですれ違う役員の方々に対する爽やかな挨拶や宿舎等でのしっかりとした過ごし方にも現れており、未来を担う豊かな心とたくましい身体を有する生徒の育成に貢献されていたと思われます。大会会場での横断幕の文言やゲーム中の指示の内容からも、技能の土台となる心の指導が徹底されていると感じられました。全国各ブロックの厳しい予選を勝ち抜いてきた精鋭とあって、会場での観戦や移動のマナーの面、保護者の応援の姿にも、その日頃のチーム指導の姿勢が良い影響を及ぼしていたと思います。また今大会は、何よりも選手の健康を第一に考え、練習の成果が発揮できるように、選手と応援が一体となることのできるように、と配慮された運営でした。実行委員会のみなさんをはじめ、ハンドボール専門部にとどまらない開催地をあげての心のこもった運営が随所に見られ、大会を無事に終えることができました。

さて、今大会を振り返りますと、男女ともに接戦のゲームが非常に多く、2点差以内のゲームが男子で6試合、女子で7試合あり、1点の得失が大きなウエートを占めました。延長にもつれ込んだゲームも全体で5試合あり、残り数秒の1点が明暗を分けるなど、最後まで目の離せない大会でした。また、近年の「地域間の差の縮まり」を象徴する大会でもあり、強豪である関東ブロックと九州ブロックの代表の姿が見られない最終日となりました。男子の部で自身初、北信越ブロックとしては7年ぶりとなる優勝を飾った氷見市立西條中学校（富山県）、女子の部でも同じく自身初、北信越ブロック6年ぶりとなる優勝を果たした福井市明倫中学校（福井県）。いずれも、春との2冠獲得たいへんすばらしいことと思います。監督・コーチのみなさん、活動をバックアップしてこられた保護者の皆さん、温かく見守られてきた学校関係者のみなさんおめでとうございました。さらには、女子優勝の明倫中学校の選手のみなさんの閉会式での所作のすばらしさは、前述の日頃の指導の表れと強く感じました。

現代のハンドボールでは、スピード・テクニック・スタミナの身体的要素に加えて瞬時の判断力が問われ、大変レベルも上がってきています。リオデジャネイロオリンピックへの出場、さらには熊本女子世界選手権、東京オリンピックでの上位進出にむけて我が国ハンドボール界を上げてステップ



アップを目指しているなか、今大会の中から将来オリンピックや世界選手権といった国際的に活躍する選手が多数現れてくることを祈ります。

終わりに、本大会を開催するにあたり、多大なご指導・ご支援を賜りました関係諸機関・団体役員の先生方、地元花巻市の実行委員会・中体連、生徒役員の皆様の心のこもった大会づくりと運営ぶりに深く感謝申し上げ、総評と致します。会場内すべての方々に大きな声で挨拶をする地元の中学生による誠意あふれる運営は、爽やかに絆の華の咲き誇る姿を感じさせてくれるものでした。誠に、ありがとうございました。

実行委員会事務局長
岩角 聖孝

平成27年度全国中学校体育大会第44回全国中学校ハンドボール大会を8月21日～24日までの4日間にわたり、岩手県花巻市において開催しました。日本リーグやインカレ、インターハイ等の開催実績のある花巻市総合体育館1会場3面で大会を運営しました。

男女ともに春の全国中学生ハンドボール選手権大会を制した男子富山県氷見市立西條中学校、女子福井県福井市明倫中学校が初優勝を飾り、春夏連覇の偉業を達成しました。男子西條中学校はスーパーエース安平主将の変幻自在なプレーを中心に多彩な攻撃力で他を圧倒しました。女子明倫中学校は大黒柱酒井主将を中心に鍛え上げられた「心・技・体」を充分に発揮し他の追随を許しませんでした。男女ともに延長戦や1点差の好ゲームが多く、中学生の全力プレー・熱い戦い、爽やかで一生懸命ハンドボールに打ち込む姿勢は多くの人々に感動を与え、復興に向けて頑張っている岩手県民にも勇気を与えてくれました。また、開催地である岩手県勢が全中に4校出場する快挙を成し遂げるとともに男子矢巾中学校が地元の大応援団を背に見事男子の県・東北勢最高位となる準優勝という成績を収め地元開催に花を添えました。

本実行委員会は、2年前から開催に向けて準備を進めてきました。全国の選手・チーム役員、大会役員・審判員等の皆さんに「花巻に来て良かった」、「全中に出場できて良かった」と言ってもらえるよう「おもてなしの心」と「絆の華」を合い言葉に取り組んできました。また、被災地県である本県で開催される意義ある大会でもあり、大会を通して被災から復興へ向けた多くの人々が一生懸命取り組んでいる様子を伝えながら支援していただいた方々への感謝の気持ちを発信する場になればとも考えてきました。大会運営の具体的なコンセプトは「コンパクト」「選手優先」「花巻らしさ」でした。全中先催県・JOC大会、春中大会の視察や齋藤競技部長のご指導のもと全国的にも有名な花巻温泉郷と全館空調も整備された大会会場・大会会場宿泊施設に近い練習会場、高速交通網等の利便性を生かし様々な工夫を試みました。また各式典・選手控室・チーム応援席・アップ場・展示物等は趣向を凝らし独自性を出してみました。ホームページやフェイスブック、地元イメージキャラクターの登場等も充実させ大会を盛り上げることができました。

競技役員は岩手県ハンドボール協会の協力のもと花巻市中学校体育連盟と岩手県中学校体育連盟ハンドボール専門部が連携を密にして取り組みました。生徒役員は市内中学校2校のハンドボール部員を中心に組織し献身的に働いてくれました。東北各県中学校体育連盟ハンドボール専門委員長にも協力を頂き、花巻市・岩手県・東北が一枚岩となって取り組むことができました。

来年度本県では「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」が開催されます。本年度は国体リハーサル大会である第20回ジャパンオープンハンドボールトーナメントを皮切りに第42回東北総合体育大会そしてこの全中と3大大会を8月に連続で開催しました。「いわて花巻ハンドボール夏の陣2015」と銘打って行った3大大会の取りをつとめた全中開催によってここ花巻は小学生を除く全カテゴリーの全国大会を開催することができました。この大会での成果と課題を明確にして大取りとなる来年度の「希望郷いわて国体」の成功に向けて、そして悲願の全国制覇に向けて岩手県中学校体育連盟、岩手県ハンドボール協会、花巻市ハンドボール協会と連携をとりながら今まで以上に努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご尽力頂きました（公財）日本中学校体育連盟、（公財）日本ハンドボール協会、岩手県、花巻市、東北中学校体育連盟、岩手県中学校体育連盟、岩手県ハンドボール協会、花巻市ハンドボール協会、（一財）花巻市体育協会、花巻市国体推進課そして協賛各位に改めて厚く御礼を申し上げますとともに、次年度開催である石川県大会の大成功を祈念して、今大会のお礼のあいさつとさせて頂きます。みなさん本当にありがとうございました。



男子優勝 氷見市立西條中学校（富山県）

西條中学校ハンドボール部監督　三﨑 篤志

3月に地元・氷見で開催された春の全国大会で優勝したこともあり、「夏も優勝し、春夏2冠を」という周囲の期待は高まっていました。たくさんの支援にありがたさを感じる一方、私たち指導者が感じるプレッシャーは日に日に大きくなっていきました。そのような中、悲願の初優勝を成し遂げることができたことを大変うれしく思います。

本校は、1回戦はシードのため2回戦からの出場となりました。2回戦の相手は、春の大会でも対戦した北海道の光成中学校、3回戦の相手は、パワーとテクニックに優れ、過去に敗れたこともある京都の大住中学校、準決勝の相手は多彩なポストプレーが特徴の山口県岩国中学校。そして、決勝戦は地元・岩手の矢巾中学校と対戦しました。決勝戦は、地元チームを後押しする大声援の中での試合となりました。経験したことのない状況に、試合前、選手たちの顔には緊張の色が表れていました。特に、矢巾中学校は準決勝で優勝候補の一角である石川県の板津中学校を延長戦の末に下しており、その勢いに怖さも感じていました。試合が始まり、序盤は一進一退の攻防が続きましたが、相手の策の裏をかき、自分たちの得意な展開に持ち込んで点差を広げ、勝利することができました。

西條中学校のモットーは「楽しくプレーする」です。勝つことも大事なことですが、私はそれよりもハンドボールという競技の魅力を忘れず、中学生の柔軟な思考力で自由にプレーしてほしいと思っています。だから選手たちには、日々楽しんでプレーすることと、観客を魅了し、心躍らせるプレーをしてほしいと言ってきました。今回、決勝の舞台でも終始ハンドボールを楽しむ姿が印象的で、これまで培ってきたものを全て発揮できたのだと、私は嬉しく思いました。

この夏、選手たちは最後まで走りきれるよう、体力トレーニングに取り組んできました。どんなに高い技術もスピードも、1試合を通してパフォーマンスを発揮できなければ勝つことはできません。優れた技術を支えるのは、土台となる基礎です。この夏、選手たちは熱中症やスランプに陥りながらも腐らずひたむきに練習してきました。私は、堂々と自分たちのハンドボールで戦い抜いた選手たちを誇りに思います。

最後になりましたが、素晴らしい選手、尊敬できるスタッフ、温かい保護者の皆様と出会えたことをうれしく思います。また、中体連をはじめ、ご支援いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

西條中学校ハンドボール部主将　安平 光佑

一つの目標であった「春夏連覇」。この目標を達成できたことを、僕はとても嬉しく思います。僕は小学生の時、全国大会の決勝で負け、悔しい思いをした経験があります。その悔しさを糧に、成長し、春の全国大会で優勝することができました。しかし、陰では「地元の利が働いたのでは」と言う人もいました。だから、僕はこの全国大会でどうしても優勝し、西條中学校のハンドボール部の強さを証明したいと思っていました。

優勝するために、僕たちは努力をしてきました。他校が本校のプレーを研究し、自分がマークされることはわかっていました。その対策を幾通りも考え、練習してきました。また、走り込んできた量では、どこのチームにも負けない自信があります。部活動の時間以外にも、仲間で集まって自主練習に取り組んだりもしました。監督・コーチは「体力がないチームは勝てない」と言います。僕も、技術やパワー、スピードで相手より勝っていても、最後に勝敗を決するのは「体力」だと思います。僕たちが勝てたのは、技術が勝っていたのではなく、相手よりも走り切るだけの体力があったからだと思っています。

大会に臨む前、チームの状態は万全とは言えませんでした。熱中症になる人や、プレーがうまくいかずスランプ気味だった人など、不安要素が山積していました。そんな不安な僕たちを支えてくれたのが、いつも部活動指導をしてくださる先生やコーチ、家族でした。僕たちに悔いのないようにプレーをしてほしいと、メンタル面、体調面、技術面で支えてくれました。

僕たちはハンドボールが大好きで、楽しんでプレーしています。自由にやりたいことをさせてもらえることに感謝しています。この大会が、自分が西條中学校のハンドボール部として戦える最後の大会だったので、絶対に優勝し、支えてくださった人たちに感謝の気持ちを伝えたいと思っていました。今回、一番いい結果が報告できたことを、うれしく思います。応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。次の目標はJOCで優勝することです。「三冠」を目指して頑張ります。



女子優勝 福井市明倫中学校（福井県）

明倫中学校女子ハンドボール部顧問　糸　尚代

この度の全国中学校ハンドボール大会において、優勝という成績を収めることができましたことを大変うれしく思います。同時に、大会開催にあたり、準備や大会運営にご尽力いただきました多くの関係者の皆様に心からの感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

今年のチームの３年生の多くは、小学生時にも全国優勝するという経験と、昨年度は、全中に出場するも２回戦敗退という結果に終わっていました。そこから、特に練習内容が変わったことはありませんが、日頃から本番の試合をイメージさせることを心がけてきました。また指導者としては、ただハンドボールが強いだけでなく、人としてすべての方々に愛されるチーム・人であってほしいという思いで礼儀やチームの在り方を伝えてきたつもりです。今回、たくさんのプレッシャーがある中でも様々な課題を乗り越え、優勝という結果を残した彼女たちの強さを誇りに思います。

また、今大会では全国のハンドボール仲間とも触れ合うことができ、私自身もそして選手達もたくさんの思い出を花巻の地で作ることができました。この後、選手たちはJOC、そして３年後の福井国体と続きますが、全国の仲間と切磋琢磨し、ハンドボールを楽しむためにもさらに精進してくれることを願っております。

明倫中学校女子ハンドボール部　酒井 優貴子

春の全国大会で優勝という結果を残すことができ、本当にたくさんの方からお祝いの言葉を頂きました。と同時に「春・夏・連覇」という周囲の期待をひしひしと感じながらの練習となりました。練習では、技術的なことのほかにメンタル強化や集中力の継続を意識して取り組みました。そんな中、8月20日、夏の全国大会の開会式を迎えました。自分達の力がどれだけ通用するかというワクワク感と春夏連覇できるだろうかという複雑な気持ちでした。

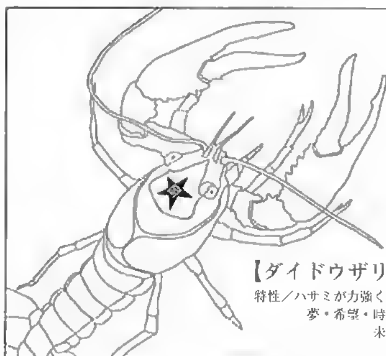
決勝戦が始まると、序盤から流れをつかみ主導権を握ることができました。しかし、後半、２点差まで追い上げられる展開となりました。そこで焦らず、声を掛け合い、１点ずつ得点を重ねていきました。セットオフで点を取ることが難しい場面では、「守って走る」を徹底していきました。

春での課題は確実に減らすことができましたが、まだ完璧とは言えませんでした。それは自分たちがリードすると気の緩みからプレーが軽くなり追い上げられることが多々あったからです。しかし苦しい展開になった時に頑張れる雰囲気をチーム全員でつくることができたので優勝する事ができたのだと思います。

明倫中学校が優勝したのは初めてですが、このような結果を得られたのは福井県の先輩方が伝統を積み重ねてきて下さったおかげです。また、自分達を最後まで見捨てずにご指導してくださった糸先生には感謝してもしきれません。

最後になりましたが、今大会でご支援、ご協力いただきました関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。





ツカムチカラ

【ダイドウザリガニ】
特性／ハサミが力強く、
夢・希望・時代を掴む力に優れていて
未来へ突き進む強靱な尾を持つ。

大同には"ツカムチカラ"がある


大同特殊鋼
www.daido.co.jp

男 子

■準決勝

西條　32（16－11、16－7）18　岩国

準決勝は岩国中のスローオフで始まった。序盤からシュートを打ち合う展開となるが、岩国中は牧野の連続シュートで序盤を制する。西條中はタイムアウトを機に、岡田や中山のシュートで 10 分過ぎ同点に追いつく。その後は一進一退の攻防が続く。終盤は両チームの速攻の打ち合いが続くが、西條中安平の連続シュートをはじめ、次々と点が入り徐々に相手を突き放した。岩国中が速攻を決めるも、西條中が優位に立ったまま前半は終了。

後半は、序盤から互いに点数の取り合いとなる。しかし西條中は、林のサイドシュートや窪田のカットインシュートなど多彩な攻撃で点数を重ね、徐々に相手を引き離す。岩国中もポストプレーや速攻を駆使し攻め立てるが、堅い守りに阻まれ、思うほど点数に結びつかない。むしろ西條中安平や窪田などの速攻が面白いように決まり、終盤は常に優位に立って試合を進めた。終盤は 2 年生の選手主体に試合を組み立てるなど、終わってみれば西條中が大差をつけて岩国中を破り、決勝に進出した。

矢巾　26（13－14、13－9）23　板津

地元の大声援を背に初の準決勝進出を果たした矢巾中と香川第一中との激闘を制し 28 年ぶりの準決勝進出となった板津中との準決勝は板津中のスローオフから始まった。両チーム持ち味のスピードを活かしたオフェンスで得点し互角の立ち上がりとなる。試合が動き始めたのは前半 9 分。内田のサイドシュート、金津のミドルシュートで連取した板津中が 7 対 4 と 3 点リードする。前半の中盤は、板津中が素早いパス回しから確実に得点を重ねるのに対し、矢巾中は戸塚の速攻や安倍が確実に 7mT を決め、追いすがる展開が続く。残り 7 秒、ディフェンスを凌いだ矢巾中が速攻でノーマークシュートを放つが GK 横田がファインセーブを見せ、14 対 13 と板津中が 1 点をリードして折り返した。

後半開始早々、安倍のミドルシュートが決まり矢巾中が同点に追いつく。お互いに点を取り合う中、後半 6 分、交代して出場した川村がサイドシュートを決め、この試合初めて矢巾中がリードを奪うと、さらに 4 連取で後半 11 分に 20 対 16 と 4 点リードを広げた。後半 15 分、板津中は矢巾中の退場を機に、確実に点差を縮めることに成功し 19 対 22 とする。徐々にリズムを取り戻し始めた板津中は 20 分には 1 点差まで詰め寄った。残り 5 分の勝負となったが要所を押さえ、ノーマークシュートを確実に決めた矢巾中が岩手県勢初の決勝進出を果たした。

■決勝

西條　40（21－11、19－21）32　矢巾

春の全中との 2 冠を目指す西條中と地元岩手で初の決勝進出を果たした矢巾中の注目の決勝戦。西條中のスローオフで試合が始まった。先制点は西條中杉本のポストシュート。序盤は矢巾中安倍、工藤のミドルシュートなどでほぼ互角の立ち上がりだったが、安平を中心にスピードに乗ったオフェンスで西條中が徐々にリードを奪う。何とか状況を打開したい矢巾中だが、西條中の高さと機動力を活かしたディフェンスをなかなか崩すことが出来ない。西條中は安平にマンツーマンを仕掛けられるが、息の合ったコンビネーションから繰り出すプレーで窪田、杉本らが次々と得点を重ね、21 対 11 と大きくリードして前半を折り返した。

後半開始早々、矢巾中が幸先よく 2 連取しリズムが変わるかと思われたが GK 田上の好セーブにより点差は縮まらない。西條中は矢巾中のミスを確実にゴールに沈め後半 9 分には再び 10 点差とする。追い上げたい矢巾中は持ち味である速攻を軸に少しずつリズムをつくり、後半 13 分には 6 点差まで詰め寄るが、コートを大きく使いワイドにオフェンスを組み立てる西條中のパス回しに苦しみ失点を防ぐことが出来ない。終盤は西條中に退場者が出たのを機に矢巾中が得点を挙げるが、西條中が落ち着いて対応し 40 対 32 と 8 点差をつけて勝利。春の全中に続く 2 冠を達成した。両チーム最後まで走り続け中学生らしいはつらつとした決勝戦であった。



OSAKI



mind

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。



限られた資源だから、有意義に使っていきたい。
命あるものたちが共存する地球だから、
快適な環境を守っていきたい。
計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、
ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、
つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社　〒141-8646　東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア　TEL.(03)3443-7171(代表)

女子

■準決勝

明倫　31（19－11、12－14）25　朝明

共に 2 回戦から勝ち進んだ北信越第 1 代表と東海第 3 代表が準決勝で激突した。開始 30 秒明倫中・横山がポストシュートを決めると、1 分に朝明中・陣田がサイドシュートか決める。その後明倫中・酒井のシュートから 4 連続得点。流れを取り戻そうと朝明中がタイムアウトを取るが、明倫中の勢いが止まらず、竹内のシュートから 4 点連取する。しかし、7 分朝明中・和氣の速攻を機に、中西、青木、加藤らがシュートを決める、前半 20 分に 3 点連取するも、素早い多彩な攻撃や堅いディフェンス、GK 橋本の好セーブで序盤にリードを広げた明倫中が 19 対 11 と 8 点リードで前半を折り返した。

後半流れを変えようと朝明中は明倫中・酒井、久保ダブルマンツーを仕掛け 3 点連取する。しかし、明倫中も横山、竹内、戸田らが得点を重ね、一進一退の攻防が 10 分間続き点差は変わらない。中盤、朝明中が再三 2 点差まで詰め寄るも、それ以上点差は縮まらなかった。両者とも最後までスピードを生かした攻防を繰り広げたが、前半序盤でリズムをつかみ得点を重ねたリードを守った明倫中が 31 対 25 で決勝戦への切符を手にした。

平田　14（6－5、6－7、1－0、1－1）13　平針

女子準決勝、東海ブロック第 1 代表平針中と中国ブロック第 1 代表平田中のカード。過去に優勝・準優勝経歴のある両校が激突。平田中スローオフ。序盤から両者激しいピストンでゴールを狙うが、両 GK の好セーブが光り、中盤・終盤に 2 度、5 分間得点が動かない苦しい展開。その中でも岡田を中心に多彩な攻撃と相手ミスからの 7mT を確実に決めた平田中が 6 対 5 の 1 点リードで前半を折り返す。

後半は攻め手を探る平針中、熊崎が左サイドからカットインでシュート。同点に持ち込む。その後は互いに一進一退。しかし平田中岡田が単独で 5 連続得点を挙げ若干のリードを奪う。対する平針中は浦野のミドルシュートや河田のサイドシュートで応戦。12 対 12 の同点で迎えた終了間際、相手ミスから最大のチャンス 7mT を、25 分終了後に平田中が外し勝負は延長戦へ。延長前半 4 分に平田中小野が速攻からシュート、13 対 12 の 1 点リードで折り返し。後半平針中飯田がポストシュートで同点。勝負が分からなくなる。しかし終了間際に平田中上村がカットから渾身のドリブル速攻を決め、14 対 13 で平田中が決勝進出を決めた。準決勝に相応しい大接戦となった。

■決勝

明倫　24（15－8、9－11）19　平田

女子決勝は、北信越の明倫中と中国の平田中の、ともに初優勝をねらう両校の一戦となった。スローオフの明倫中が竹内の得点で先制すると、すぐに平田中も岡田のシュートで同点に。平田中は、岡田、小野がカットインシュートで得点するが、明倫中も横山の速攻や酒井の 7mT などで得点を重ね、8 分に平田中がタイムアウト。その後、明倫中が速攻などで徐々にリードを広げたのに対し、平田中も、田中や有馬のサイド攻撃などで一時 2 点差まで迫った。しかし、明倫中・横山、竹内らの得点や GK 向嶋の 7mT ナイスセーブもあり、明倫中が 15 対 8 と 7 点リードで前半を折り返した。

後半開始直後は互いに速攻を掛け合う中で、平田中・小野、上村らの得点で点差をつめるが、明倫中も酒井、竹内らが点を取り返す。必死に走って速攻を仕掛ける平田中が岡田の活躍で点差をつめると、11 分に明倫中がタイムアウト。直後に平田中の退場の間に明倫中・久保が 7mT を決め、河原のサイド攻撃も決まる。試合は、終盤まで激しい走り合いが続き、平田中が岡田、上村の活躍や GK 田村の 7mT のナイスセーブなどで 3 点差まで迫ったが、反撃も届かず、明倫中が 24 対 19 で勝利し、優勝を飾った。



三菱重工メカトロシステムズ
スマートリフトパーク
人と環境にやさしい
セルパーク
独自システムでより速く、スマートに
三菱立体駐車場
三菱重工メカトロシステムズ株式会社
営業本部／パーキング営業部
〒231-0062
横浜市中区桜木町1-1-8(日石横浜ビル)
TEL 045-319-6240
http://www.mhims.co.jp/

asics®
sound mind, sound body

うまくなりたいと思ったら、
言い訳しないことだ。

PHOTO BY KISHIMOTO

©JHA 2014年ハンドボール日本代表

上方向へのジャンプを高める
テクノロジーを搭載した、
スタビリティトップモデル



ゲルブラスト
GEL-BLAST®6
THH537 ¥12,800+税

弾むようなやわらかさと
軽量性を兼ね備えた、
スピードプレーヤーのための
クッショニングモデル



ゲルバインド
GELBIND
THH540 ¥12,000+税

株式会社アシックス asics.com

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
表示価格は消費税抜きのメーカー希望小売価格です。消費税率は改定により変動する場合があります。商品についてのお問い合わせは「アシックスジャパン株式会社お客様相談室」までどうぞ。0120-068-806

第42回 全国高等専門学校ハンドボール選手権大会







総評：大会を振り返って

熊本高等専門学校八代キャンパスハンドボール部顧問　四宮 一郎

第42回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、第36回に続き熊本高専八代キャンパスが5度目の担当校となり、八代市総合体育館と宇城市松橋総合体育文化センターの2会場で8月20、21日に開催されました。今大会は、全国高専体育大会が50回を迎える記念大会ということで、出場チームが12チームから16チームに拡大となり、試合形式も予選リーグ方式からトーナメント方式に変更、また組み合わせ抽選を開会式直前に全選手が見つめる中、メインコートで行うなど50回記念大会に相応しい盛り上がりとなりました。

今大会は、前回本校が担当した第36回大会と同様に2会場での開催となり、宿舎から松橋会場まで遠く、公共交通機関の便が悪いなど、各チームの皆様には大変ご不便をおかけしました。各チームが少しでも良いコンディションでゲームに臨めるよう、担当校として松橋会場までの移動にシャトルバスを手配するなど配慮したつもりですが、希望の時間に乗れなかったり、他のチームと相乗りになったりと、至らぬことが多々あったことをお詫び申し上げます。

さて、競技結果ですが、今大会はトーナメント形式ということもあり、1回戦から白熱した試合が展開され、金沢高専、米子高専、北九州高専、徳山高専の4高専が準決勝に進出しました。準決勝第1試合では、大会5連覇を目指した徳山高専でしたが、終始北九州高専にリードを許す展開となり、準決勝で涙をのみました。また、第2試合は、金沢高専が中盤米子高専のディフェンスにやや苦しみましたが、序盤のリードを保ったまま危なげなく決勝戦に駒を進めました。決勝戦は、2度目の優勝を目指す金沢高専と、初優勝を目指す北九州高専の対戦となりました。これまで北九州高専は準優勝1回、3位が2回と、あと1歩で優勝を逃してきたため、今回は九州沖縄地区での開催ということもあり、何としても優勝をと意気込んで試合に臨みました。試合が始まると、両チームとも立ち上がりにやや硬さが見られたものの、前半中盤までは決勝戦に相応しい一進一退の好ゲームが展開されました。後半も一進一退のゲームが展開されましたが、終始リードを保ち、少ないチャンスで確実に加点した金沢高専が5年ぶり2度目の全国制覇を成し遂げました。今大会は、たくさんのチームが決勝戦まで残り両チームを応援してくれ、50回記念大会に相応しい盛り上がりと感動を与えてくれました。最後まで両チームを応援していただいた皆様に感謝したいと思います。

最後になりましたが、大会運営にあたり日本ハンドボール協会、熊本県ハンドボール協会をはじめ、八代市、宇城市、松橋高校ハンドボール部、熊本高専熊本キャンパスハンドボール部の皆様、また、ご協力いただいた全ての皆様にこの場を借りて厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。



街が、語りはじめる

この道の先に NIPPO

なにげない街の表情にも、新しい感性が発見できるもの。
「舗装」の彩り、風合が、街を個性的に演出します。

【横浜市・馬車道通り】 歩道：イギリスレンガ／車道：明色ロールドアスファルト

株式会社 NIPPO　本社：〒103-0028 東京都中央区八重洲1-2-16 TGビルディング
TEL：03-3563-6761　http://www.nippo-c.co.jp

北海道支店 ☎(011)231-4612　東北支店 ☎(022)282-1511　関東第一支店 ☎(03)5323-3681　関東第二支店 ☎(03)3471-0788
北信越支店 ☎(025)244-9186　中部支店 ☎(052)211-6581　関西支店 ☎(06)8942-6123　四国支店 ☎(087)862-1157
中国支店 ☎(082)568-6161　九州支店 ☎(092)771-0266　関東建築支店 ☎(03)3474-1601



優勝 金沢高専（東海・北陸地区）

大会を終えて

金沢高専監督　山口 真史

第50回全国高等専門学校体育大会第42回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会が8月20日、21日に熊本県八代市総合体育館・宇城市松橋総合体育文化センターで開催され、本校は5年ぶり2回目の優勝を達成することができました。

今大会は第50回記念大会ということで例年と大きく異なる運営方法が2つ採用されました。1つ目は参加校を2つ増やし、16校でのトーナメント戦になりました。2つ目は抽選が前日の開会式で行われました。抽選は緊迫した雰囲気の選手たちが見守る中、川原繁樹大会副委員長によって、公平に行われました。各校の学校名が呼び上げられ、対戦校が決まると歓声が上がり、選手たちの気持ちが高ぶっていくことが伝わってくる例年にはみられない盛り上がりがある開会式になりました。この盛り上がりが翌日からの熱戦に繋がったように感じられました。

大会は難しいものでした。1回戦の秋田高専戦では緊張と空回りが重なり、なかなか自分たちのリズムをつかむことが出来ませんでした。2回戦の大阪府立大学高専戦は1点差の接戦で何とか勝つことができましたが、大阪高専は上背があり、シュート力も高いチームで最後までどちらが勝つかわからない拮抗した試合になりました。後から考えるとこの接戦を乗り越えられたことが自信になり、翌日の準決勝、決勝の勢いに繋がったように感じられました。そして、準決勝、米子高専戦、決勝、北九州戦は前日の勢いのまま自分たちのプレーを貫き通し、優勝を掴み取ることができました。

今大会を終えて、まず、第50回記念大会を優勝することができたことが嬉しく感じました。次に、5年ぶりにもう一度勝てたことが嬉しく感じました。選手の頑張りや保護者、卒業していった先輩たち、大会運営を素晴らしい形で作り上げてくれた熊本県ハンドボール協会などたくさんの協力があっての結果なので、この場を借りて感謝を伝えたいと思います。

戦　評

■準決勝

北九州高専　23（9－4、14－9）13　徳山高専

準決勝第1試合は、徳山高専のスローオフで試合開始。徳山高専は守りからの速攻が速く、対する北九州高専は初戦、2回戦とも接戦をものにしてきただけに、好ゲームが期待される。立ち上がり北九州7番藤井のシュートで先制。すぐに徳山高専も追いつくが、中盤までは5対3とロースコアの展開が続く、その後北九州が3点差とすると徳山ベンチはタイムアウトを請求する。直後徳山4番阿部のシュートで2点差とするが、前半を9対4で折り返す。

後半、初戦、2回戦とも追い上げを許している北九州だが、後半開始すぐに追加点を決め、10対4と突き放しにかかる。その後徳山高専も取り返すが、2番武市の退場の間に3連続失点となり、一方的な展開となる。徳山も連続得点で追い上げを見せるが終始リードを保った北九州が23対13で勝利し、決勝へコマを進めた。

金沢高専　23（11－5、12－10）15　米子高専

金沢のスローオフにより試合開始。開始早々金沢8番宮下の連続得点で2対0とリードする。両チームとも点を取り合い同点となるが、中盤にかけて試合の動きが止まる。17分過ぎ金沢の3連続得点で7対3となり、たまらず米子がタイムアウトを請求。しかし、リズムは変わらず、試合の流れをつかんだ金沢が11対5とリードし前半を終える。

後半開始直後、米子10番足立のインターセプトからの速攻や7mTで連続得点し、11対7とするも、金沢10番前井のミドルシュートで、迫る米子を突き放す。その後中盤までこう着状態が続いたが、金沢16番吉田のポストシュートが決まり、再び試合が動き出す。米子もリズムをつかもうとDF形態を変えたが、金沢が落ちついて対応し着実に得点を重ねた金沢が23対15で決勝にコマを進めた。

■決勝戦

金沢高専　24（12－7、12－9）16　北九州高専

北九州のスローオフで始まった決勝戦は、金沢8番宮下のシュートで先制する。北九州も負けじと取り返し、15分過ぎまでは一進一退の攻防が続く。中盤以降金沢6番吉田、10番前井で3連取し9対6となったところで、北九州がタイムアウトを請求。しかし金沢の勢いは止まらず、その後も着実に得点を重ね前半を12対7で折り返す。

後半も15分過ぎまでは互角の試合を展開していたが、金沢10番前井の得点で6点差となる。すると北九州はプレスディフェンスを仕掛けるが金沢も落ち着いて対応し、着実に得点を重ね北九州を突き放し、後半12対9とし、トータル24対16で金沢が勝利した。金沢は、準決勝で活躍した北九州8番石橋のシュートを好セーブした金沢GK2番吉見のプレーが攻撃にも勢いをつけ、うれしい2回目の優勝につながった。

第20回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

開催期日：男子の部　平成27年8月9日(日)〜8月12日(水)
　　　　　女子の部　平成27年8月9日(日)〜8月11日(火)
会　　場：花巻市総合体育館、富士大学スポーツセンター

最終順位
〈男子〉
優　勝：HC和歌山（和歌山県）
準優勝：FOG（千葉県）
3　位：トヨタ紡織九州レッドインパルス（佐賀県）
4　位：長崎社中（長崎県）
〈女子〉
優　勝：香川銀行T・H（香川県）
準優勝：HC和歌山（和歌山県）
3　位：那覇西クラブ（沖縄県）
4　位：GET"S（兵庫県）





総　評

岩手県ハンドボール協会理事長 花巻市国体推進課　岡市　武

岩手県ハンドボール協会において、8月はジャパンオープンハンドボールトーナメント、東北総合体育大会、全国中学校大会、NTS東北ブロックトレーニングの全てが花巻で開催される過密スケジュールでした。称して「2015花巻夏の陣」の先陣を切ったのが第20回ジャパンオープンハンドボールトーナメントでした。来年開催される東日本大震災復興の架け橋第71回国体「希望郷いわて国体」のリハーサル大会として、8月8日（土）から12日（水）まで開催しました。会場は、国体で使用する花巻市総合体育館、花巻市民体育館、富士大学スポーツセンターの3会場の内、花巻市総合体育館と富士大学スポーツセンターの2会場で、遠路はるばるお越しいただき参加された男子32チーム、女子16チームで行われました。

今大会は、国体リハーサル大会ですので、準備・運営には希望郷いわて国体・希望郷いわて大会花巻市実行委員会のご協力をいただき、また、会場準備には花巻市の中学生、高校生と富士大学生、大会補助員は県内高校のハンドボール部員に協力をいただきました。大会運営は、限られた人数ではありましたが、数々の全国大会運営を経験した本協会を中心としたハンドボール関係者に、係の枠を越えた対応をしていただき、無事に大会を終えることができました。

8日に開会式を花巻温泉ホテル千秋閣で行い、9日から競技を開始しました。例年以上の暑さの中、冷房設備のない富士大学スポーツセンターで試合をした女子全チーム、男子4チームの選手の皆様には、暑さとの戦いもある条件の中で熱戦を繰り広げていただいたことに感謝申し上げます。10日からは花巻市総合体育館で全試合が行われ、快適な環境の中で試合ができたと思います。その中で、男子は、昨年度のベスト4のFOG、トヨタ紡織九州インパルス、長崎社中の3チームとHC和歌山が準決勝に進みました。準決勝は2試合とも大接戦で、FOG対トヨタ紡織九州インパルスは1点差で前年度覇者のFOGが決勝にコマを進め、もう1試合の長崎社中対HC和歌山は第1延長でも決着がつかず7mスローコンテストでHC和歌山が決勝進出を果たしました。決勝は第2延長までもつれる目の離せない熱戦が展開され、国体開催をひかえたHC和歌山が嬉しい初優勝を遂げました。女子決勝は、香川銀行T・H対HC和歌山の昨年度と同じ顔合わせになり、香川銀行T・Hが安定した試合運びで9連覇を達成しました。そうした中で地元チームは、男子が1、2回戦で敗退し、女子が準々決勝で敗退し上位進出はなりませんでした。

あと1年余りで岩手国体を迎えますが、今回実施できなかったおもてなし等も含め、花巻市実行委員会と一層の連携を図りながら、今大会で出た様々な課題の改善・解決に努め、万全の態勢で皆様をお迎えするよう準備にあたりたいと思います。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり御支援・御協力をいただきました日本協会、競技役員、競技会役員、競技補助員、協賛各社、そして参加チームの皆様に心より御礼申し上げますとともに、来年の「希望郷いわて国体」に向けて一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

男子優勝 HC和歌山

HC和歌山監督　古家 雅之

はじめに、私たちは2015年に地元和歌山県で開催される紀の国わかやま国体に向けて、3年前にクラブチームとして発足した『HC和歌山』というチームです。地元国体開催年度ということで、今大会では是非とも良い結果を残して国体に繋げたいという思いで大会に臨みました。

大会を振り返ってみると、準々決勝から決勝までとても厳しい戦いの連続でした。準々決勝ではHONDA（三重県）と対戦し、終盤に接戦を抜け出し何とか勝利しました。準決勝の長崎社中（長崎県）戦では、両者互角の戦いでなかなか抜け出せず、延長戦でも決着がつかずに7mTCまでもつれ込み、紙一重の差で勝つことができました。決勝のFOG（千葉県）戦では、途中ビハインドを追いかける苦しい展開が続きましたが、終盤に追いつき延長戦に持ち込み、第2延長で何とか引き離し勝利することができました。

HONDAは3年前の同大会2回戦で対戦し大差で敗北（その後HONDAは優勝）した相手、長崎社中は2年前の同大会2回戦で対戦し大差で敗北（その後長崎社中は優勝）した相手、FOGは昨年の同大会2回戦で対戦し敗北（その後FOGは優勝）した相手という、何とも数奇な巡り合わせの大会となりましたが、これまで歯が立たなかった強豪相手に全てリベンジを果たしての初優勝は、今後に向けて大きな自信となりました。

選手それぞれが別々の仕事をしているので、チーム発足当初は週2回の練習日に4～5人しか集まらないこともありました。それが今年の4月からはそれぞれの職場の理解もあり、週5回の練習で選手もほぼ全員参加できる環境を与えていただきました。また、国体が近づくにつれ県からの医科学的なサポートも日に日に充実し、フィジカルトレーニングやメンタルトレーニングのサポートも受けることができ、とても良い環境で強化することができました。その結果4日間で5試合というハードな大会で、接戦に次ぐ接戦をモノにすることができたと思っています。

最後になりますが、そんな環境を整えてくださった関係者の皆様には深く感謝と御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

女子優勝 香川銀行T・H

香川銀行T・H副主将　土井 茉那

周囲から、本大会の優勝候補の筆頭、強豪、故に当たり前と目され、決して口には出しませんでしたが、チームの誰もが目に見えないプレッシャーの中で戦ってきたと思います。私自身、日本リーグ勢が参加しない本大会は、優勝することが宿命と考え、負けることは許されないとさえ考えてきました。

私がチームに入った時には、すでに5連覇を達成しており、先輩方が今の地位の礎を築かれておりました。毎年、メンバーが入れ替わりながら勝ち続けることは、決して簡単なことではありません。チーム力を高いレベルで維持してきたことは、すごいことだと自負しています。毎年一つ一つ積み重ねてきた、この自信とプライドこそが、9連覇を成し遂げた源だと思います。

初戦から準決勝までの3試合、得意の速攻で得点を重ね勝利し、決勝戦に駒を進めました。決勝戦は、今年10月の和歌山国体に向け強化をすすめているHC和歌山との対戦でした。序盤は、両チーム共に動きが堅くミスが続き、一進一退の試合展開となりました。徐々に足が動くようになり、DFから速攻で10連続得点をし、試合を優位に進め優勝することができました。

今回の大会は、結果だけを見ると圧倒的な勝利となりましたが、試合中は、監督からの叱咤が幾度となく飛んできました。相手チームとの戦いというより、チーム自身との戦いでした。勝つことは当然、勝ち方・内容を問われているのです。それは、私たちも承知しており、チームとして目指すものは、もっと高い所にあるからです。私たちの目標は、日本リーグ勢に勝ち、日本一になることです。日々、アグレッシブにハンドボールにかける姿勢は、他のどのチームにも負けません。強固な組織を作るため、チーム内のコミュニケーションを図り、目標の実現に向けて、チーム一丸となって一歩一歩前へ進みたいと思います。最後に、いつもご支援いただいている関係者の皆様、陰ながら応援し、何より一番の味方である家族に心から感謝いたします。



【戦評】第20回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

男子

◆3位決定戦

トヨタ紡織九州レッドインパルス　23（13－6、10－9）15　長崎社中

九州対決となった男子3位決定戦は、トヨタ紡織が主導権を譲らず、8点差で勝利した。

長崎社中スローオフから始まった。先制は、トヨタ紡織海道のステップシュートであった。その後も呉と鶴田の鮮やかなコンビネーションなどで6連取、前半10分で7対1と大きくリードする。前半中盤長崎社中は、中村のカットインなどで2連取、GK古田の好キーピングもあり、点差を詰めていく。終盤、追い上げる長崎社中に我慢の時間が続いたトヨタ紡織であったが、序盤のリードを保ち前半13対6、7点差で折り返した。

後半トヨタ紡織GK谷川を中心とする堅いディフェンスに対し、長崎社中はミスを重ね、連取を許してしまう。長崎社中は後半終盤、退場者を出すトヨタ紡織に岩尾のミドルシュートなどで粘りを見せるも追いつくことができず、軍配はトヨタ紡織に上がった。連戦を戦い抜いた両チームの健闘を称えたい。

◆決勝

HC和歌山　32（10－13、12－9、5－3、0－2、2－1、3－2）30　FOG

前回王者のFOGに、HC和歌山が挑む形となった男子決勝は、FOGがポストプレーで先制し幕を開けた。序盤、互いの攻撃をしのぐ中、HC和歌山安松が速攻を立て続けに決めチームを勢いづけた。その安松が9分過ぎに退場する間に、FOGは佐藤のミドルシュートや篠田のサイド攻撃などで着実に得点を重ねてリードする。食い下がるHC和歌山は本田や安松のサイド攻撃や速攻で4連取して追いつくが、再び退場者を出すとFOGに得点を決められ引き離された。

後半開始からFOGは佐藤と小川雄が立て続けに得点を奪い、さらにリードを広げた。8分すぎにFOGが退場者を出すと、HC和歌山は湯川、榮らが速攻、ミドルシュートを決めて驚異的な追い上げを見せ、29分安松が7mTを決め遂にFOGを捉え、延長戦に持ち込んだ。

延長は両チーム激しく点を取り合う中、FOGは手痛い退場者を出し、そこをHC和歌山本田がサイドを突き2連取。勝負あったかに思われた延長後半、今度はHC和歌山に退場者が出て、FOGが最大の好機を得た。FOGは篠田がサイドシュートを決めてあと1点に詰め寄るが、HC和歌山必死の守りにゴールが遠い。ラスト15秒、FOGは最後の攻撃で小川雄が起死回生の同点弾。試合は第二延長に突入した。第二延長も両チーム意地のぶつかり合いで得点を奪い合うが、第二延長後半HC和歌山は宮元、水井がシュートを決めて熱戦に終止符を打った。HC和歌山は前回大会の決勝進出チームを準決勝、決勝と次々撃破し初の栄冠を手にした。

女子

◆3位決定戦

那覇西クラブ　21（8－8、13－11）19　GET" S

試合は、那覇西クラブがシーソーゲームを制し、銅メダルを手にした。

前半1分、那覇西クラブ新崎の芸術的なロングシュートを皮切りに、前半5分までに4対0とリードする。対するGET" Sは、矢野のディフェンスからの素早い速攻などで応戦し、26分にはこの試合初めての逆転。前半8対8同点と緊張感溢れる中、前半が終了した。

後半も、一進一退の競り合いが続き、前半よりも更にスピード感の増した、白熱したゲームが展開される。GET" S陣崎の気迫あふれるポストシュートなどで終始リードを守るが、後半24分那覇西クラブは儀間のサイドシュートで逆転すると、すぐにGET" S中村のサイドシュートで同点と接戦が続く。28分には那覇西クラブ儀間がカットインでGET" S矢野の退場7mを誘い、那覇西クラブ佐久川が落ち着いて決め、それが決勝点となり21対19で那覇西クラブが粘るGET" Sに勝利した。

◆決勝

香川銀行T・H　29（14－5、15－9）14　HC和歌山

前回大会の再現となった女子決勝は、DFからの速攻で得点を積み重ねた香川銀行が、29対14で勝利し、9年連続の優勝を飾った。

前半立ち上がり、HC和歌山が長尾の速攻で先制する。香川銀行もすぐさま藤井の速攻で同点に追いつく。香川銀行の退場をきっかけにHC和歌山は村坂、竹中で連取し、主導権を握ったかに見えたが、12分に香川銀行がTOをとると、そこから一気に流れをつかみ、DFから筑後の速攻、國方のカットインなどで11連取し、14対5で折り返した。

後半、HC和歌山も中村を起点としながら速いパス回しや、東のポストシュートなどで反撃を試みる。しかし、香川銀行も最後まで集中したDFでHC和歌山の得点を抑え、逆に重信、荒木、射矢などで着実に得点した香川銀行が29対14で勝利した。

あなたの元気を大事につなぐ
Wakunaga
元気、やる気、
笑顔、湧く。


≪販売名≫
キヨーレオピンw
滋養強壮
虚弱体質
第3類医薬品


≪販売名≫
レオピンファイブw

湧永製薬株式会社
ワクナガ
http://www.wakunaga.co.jp/
お取扱店のお問い合わせ　0120-39-0971
（通話料無料）　受付時間 9:00～12:00・13:00～17:00（土日祝日を除く）

まかせて安心

スポーツ安全保険®

5名以上の団体・グループでご加入ください。

傷害保険　賠償責任保険　突然死葬祭費用保険

少年野球大会の決勝戦
最終回２アウト満塁！
あと一人だ！
誠！！
あ、しまった
ファールフライだ
このファールを
取るぞ！
ドン
2人とも
大丈夫か！？
誠！
大丈夫！
取ったよ！
あぁ
良かった…
勝ったー!!
やったー!!
ワー
ホッ
でも、もしもの怪我にも
心強いスポーツ安全保険
をどうぞ

対象となる事故　団体活動中の事故／往復中の事故

保険期間　平成27年4月1日午前0時から平成28年3月31日午後12時まで
(申込受付は平成27年3月から)

掛金　掛金(1人年額 800円～11,000円)は、活動内容・年齢によって
ご選択いただく加入区分ごとに異なります。
例 大人(高校生以上)のスポーツ活動を補償するC区分は1,850円

補償内容　補償内容は、加入区分によって異なります。詳しくは、ホームページなどをご覧ください。

スポーツ安全協会  インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。



携帯電話から資料請求ができます。

公益財団法人 スポーツ安全協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル8階 TEL03-5510-0022

保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。

http://www.sportsanzen.org

●資料請求は、インターネットより受付けております。

このポスターはスポーツ安全保険(スポーツ安全保険特約書に基づく傷害保険(スポーツ安全協会傷害保険特約・スポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)・突然死葬祭費用担保特約付帯普通傷害保険)、賠償責任保険(スポーツ安全協会賠償責任保険特約等付帯施設賠償責任保険及びスポーツ安全協会傷害保険特約(学校管理下外担保)付帯普通傷害保険賠償責任担保条項))の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

(引受幹事保険会社)
東京海上日動火災保険株式会社(担当課)公務第２部 文教公務室
TEL 03-3515-4133(平日 9:00～17:00)
(共同引受保険会社(平成27年4月))
あいおいニッセイ同和　共栄火災　損保ジャパン日本興亜　大同火災　東京海上日動
日新火災　富士火災　三井住友海上

平成26年12月作成　14-T-09671

第17回 全日本ビーチハンドボール選手権大会

期日：2015年8月22日(土)、23日(日)
会場：愛知県南知多町 小桝公園海岸 特設コート

［最終順位］
【男子】
優　勝：日本体育大学A
準優勝：MJクラブ
3　位：東海Weeds！・日本体育大学B
【女子】
優　勝：日本体育大学
準優勝：SHINE
3　位：東海Weeds！・ハミングバード

大会を振り返り

(公財)日本ハンドボール協会普及部
ビーチハンドボール専門委員会　沖本 哲郎

昨年の大会に引き続き、8月22日、23日の晴天の2日間、愛知県南知多町小桝海岸の特設コートにて男子6チーム、女子4チームを集めて大会を開催しました。

今年は、初めてビーチハンドボールをするチームが1チームのみだったため、よりハイレベルの試合が行われました。しかしながら初参戦した新日鐵住金名古屋も通常のハンドボールの経験と対応力の高さで、すぐにビーチハンドボールの特性を理解し融合し、予選リーグを2位で通過できたので今後の活躍にも期待ができます。ビーチハンドボール経験者が多いチームとそうでないチームでは、身体能力としては同じくらいだったとしてもビーチハンドボールの特性を生かしきれるかが結果に結びついていたと実感しました。

決勝戦は男女ともにショットアウトまでもつれ上位チームの力の差はほとんどなくどこのチームが優勝してもおかしくないと感じました。試合の結果および成績に関しましては別紙を参照ください。

昨年同様に審判の育成も兼ねて愛知県協会に所属する審判員数名に笛を吹いてもらいました。通常のハンドボールだけでなく、ビーチハンドボールの審判としても十分に笛を吹けるくらいにまで成長できていると感じました。今後も選手への普及だけでなく、審判員へも普及活動を行い、競技人口の増加とともに、審判を増やしていきたいと思います。

運営に関しましては、昨年の反省を元に、人手不足を解決するために地元の先生方にご協力していただけるよう働きかけ、準備や片づけをメインにご協力いただけたことに感謝しております。

今回は参加チームが少なかったため、1コートで試合を消化することができ多くのスタッフを必要としませんでしたが、今後開催する場合にはもっと多くの人員が確保できるようにしていかなければならないと感じました。

最後になりましたが、南知多町様、内海観光協会様には、海岸は基より備品を貸し出していただきましたことに感謝いたします。株式会社モルテン様には、試合球を提供していただきありがとうございました。名鉄観光サービス様には締め切りギリギリまで宿泊人数の変更に対応していただいたことに感謝いたします。内海の竹内様、内田様には何度も大会開催に向けて打ち合わせや事前準備にご尽力していただきましたことを非常に感謝しております。また、今大会でも地元の企業様のご厚意で協賛していただいたことにうれしく思います。

日本ハンドボール協会の山本繁参事、愛知県ハンドボール協会新貝会長はじめ多くの関係者にお越しいただき、まことにありがとうございました。たまたま通りかかったハンドボール関係者の方に立ち寄っていただき声を掛けていただきましたが、まだまだ知名度の低いスポーツです。地元ケーブルテレビでの放送だけでなく、もっともっと多くPRしていかないといけないと実感しました。

大会運営に協力していただきました、東海Weeds! の皆様には心より感謝申し上げます。

戦　評

【男子】

■準決勝

日本体育大学A　2（18－12、18－16）0　日本体育大学B

経験者を多く含むAチームと今年からビーチハンドボールを始めたBチームとの戦い。1セット目、Aチームがディフェンス、オフェンスともに経験の差を見せつけBチームを圧倒、Bチームは宮野入にボールを集め奮闘するもAチームの勝利。後半、Bチームはマークが集中しないようボールを回しどこからでも点が入るようになった、しかし、Aチームの小川の連続得点により1歩及ばず2セット目もAチームの勝利となった。

MJクラブ　2（24－20、12－14、8－6）1　東海Weeds!

愛知県同士で何回も試合をやっているため、お互い手の内は分かっており、1セット目、一進一退の攻防となったがMJクラブが勝利。2セット目は、両チームともディフェンス、キーパーが活躍しロースコアの展開となったが、東海Weeds! が勝利。ショットアウトでは、先攻のMJクラブの2人目彦坂のシュートをキーパーがセーブ、東海Weeds!3人目高橋が1点取れば勝ちとなったが、キーパーの好セーブによりサドンデスにもつれ込んだ。東海Weeds!6人目高橋のシュートは、またもキーパーの好セーブによりMJクラブの勝利となった。

■決勝

日本体育大学A　2（22－16、22－24、8－4）1　MJクラブ

1セット目、お互いにキーパーシュート、ピルエットシュートで点の取り合いとなった。終盤、日本体育大学Aがリードするとそのまま逃げ切り勝利。2セット目、追い込まれたMJクラブはシーソーゲームの末、勝利しショットアウトへ。日本体育大学Aが1人目小川のシュートが止められるも、MJクラブの2人目彦坂、4人目金田のシュートをキーパー奥野の好セーブで日本体育大学Aの優勝が決まった。

【女子】

■準決勝

SHINE　2（10－6、19－3）0　ハミングバード

1セット目は両チームともに点が決まらずロースコアとなった。シュート数はほぼ同じだったが、2点シュートを多く決めることができたSHINEの勝利となった。2セット目はハミングバードの攻撃がことごとく押さえられ、逆にSHINEは2点シュートを積み重ね、2セット目もSHINEの勝利となった。

日本体育大学　2（18－11、13－6）0　東海Weeds!

1セット目、日本体育大学は中谷、谷川が2点シュートで得点を重ねるも東海Weeds! は河合を中心に1点ずつ積み上げていく作戦。シュート数こそ同じであったが,2点シュートを多く決めた日本体育大学の勝利。2セット目も日本体育大学の2点シュートが確実に決まり、東海Weeds! を大きく突き放して勝利した。

■決勝

日本体育大学　2（12－14、14－12、5－2）1　SHINE

1セット目、お互い2点シュートで点を取り合うも最後はSHINEの粘り勝ち。2セット目、SHINEは望月、日本体育大学は佐々木にボールが集まり得点を重ねる。日本体育大学は磯が2回目の退場で失格となり、ディフェンスの中心を失うも残りのメンバーでカバーし何とか日本体育大学が勝利し、決着はショットアウトへ。日本体育大学先攻で始まり、1人目の時、SHINEキーパーに入った望月がカット狙いに行くもオフェンスと接触し退場となる。その後、SHINEは1人目、2人目、4人目のシュートを日本体育大学キーパー安田がセーブ。日本体育大学は、谷川、沓掛、佐々木が確実にシュートを決め、日本体育大学の優勝となった。



男子優勝　日本体育大学A

日本体育大学A　會田 隆介

私たち日本体育大学Aチームは今回の大会を通じてビーチハンドボールの楽しさや難しさ、そして奥深さを身をもって体験することができました。

第一に感じたことは体育館で行うハンドボールとの違いでした。今回のチームにはビーチハンドボールを初めて行うという人もいたため、ルールの難しさなどにも苦しめられる部分もありました。しかし試合を重ねるごとにビーチハンドボールのルールを理解することができ、全力でプレーすることができ心から楽しむことができました。

それとともにビーチハンドボールの奥深さを知ることもできました。日本体育大学Aチームにも初心者がいましたが、ビーチハンドボール日本代表経験者もいたため、ルールは理解しているつもりでしたが、今回の大会で改めて、その奥深さを知ることができたと思っています。例えばショットアウトまでもつれ込んだ時のキーパーとシューターとの駆け引き、ディフェンスをしているときのどこで勝負をするかなどです。

ビーチハンドボールの技術的な部分ももちろんですが、今回の大会で同じビーチハンドボールをする様々な人との交流を持つことができました。現状ではハンドボール、ビーチハンドボールともに競技人口が少ないです。今回の大会を通じて、私たちが感じたビーチハンドボールの楽しさ、難しさ、奥深さをより多くの人たちに知ってもらい、日本のハンドボール、ビーチハンドボールの発展に貢献していきたいと思います。

また、自分たちがビーチハンドボールをプレーするにあたって、会場準備や大会の運営などを行っていただいた関係者の方々や大会のサポートをしてくださった南知多町の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ビーチスポーツが盛んで多くの人と触れ合うことができ、人柄もあたたかい南知多町はすばらしい町でした。





女子優勝　日本体育大学

日本体育大学女子コーチ　山本 沙貴

はじめに、第17回全日本ビーチハンドボール選手権大会の開催にあたり、運営をして頂いた日本ハンドボール協会、ビーチハンドボール委員会及び、愛知県ハンドボール協会、運営補助員の皆様方に心より感謝申し上げます。

今大会を迎えるにあたり、ビーチハンドボール特有の2得点となる「ピルエットシュート」の強化を目標に練習を行いました。2年に1度、OCA（アジアオリンピック評議会）による「アジアビーチゲームズ」が行われますが、昨年度タイのプーケットにて開催された第4回大会に出場し痛感した事は、ピルエットシュートの確実性でした。結果として日本は10チーム中5位でしたが、上位チームのタイ、台湾、ベトナムはピルエットシュートを確実に打ち込める選手が多くいました。本大会と、8月8日～9日に千葉県で行われた「第19回ビーチハンドフェスタ富浦さざ波大会」に参加し、ピルエットシュートを果敢に挑戦しましたが、シュートミスや着地、ラインクロスが課題となる結果となりました。

1セット10分で試合が行われる中、女子の攻撃回数は国内大会の場合15回程度になります。2点シュートの確実性が高ければ高い程、簡単にセットを取ることが出来ますが、試合の流れによっては1点を確実に取りに行く時間帯も必要になると考えられます。常にオフェンスが4人、ディフェンスが3人の4対3なので、ディフェンスは当然ながら2点を強く守りに行きます。オフェンス側は確実に1人フリーになるので、1点を着実に積み上げていくのも戦術となる事もあります。また、ビーチハンドボールは2セット制の為、1セットを取る事によって、もう1セットを落としてもショットアウト（ゴールキーパーのスローからワンマン速攻でのシュート勝負）に持ち込む事が出来ます。

今大会、日本体育大学がアベック優勝となりましたが、ビーチハンドボールの面白さをより多くの方に知ってもう為にも、日本体育大学男女共々、ますますの普及発展の為に今後とも盛り上げて行きたいと思います。

最後になりましたが、今大会開催の為にご尽力いただきました関係者の皆様、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



～ラグビーの勇気見習おう～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

2020東京オリンピック・パラリンピックを巡る騒動はどのような決着を見るのだろうか、気になるところだ。それはさておき、ハンドボール界としては、その前年に開かれる女子の世界選手権がどのようにファンや世間にアピールするかが気になるところである。というのも、同じ年に行われるラグビーW杯とどうしても比較されるからだ。

そのラグビー、現時点では悔しいながら一歩リードされていると言わざるを得ない。9月から10月にかけてイングランドでのW杯で歴史的勝利を挙げた。初戦の強豪、過去2度も優勝している南アを相手に劇的な逆転勝利をやってのけただけに、メディアも放ってはいない。あれだけ新聞やテレビで報道されると、否が応でも、関心のない人たちでも目に入り「ラグビーはすごいじゃないか」と言うことになる。

それに引き替えハンドボールのアピール度はどうだろうか。10月のリオ五輪女子アジア予選も開幕前にはそれほど話題にはならなかった。プロ野球やサッカーJリーグがシーズン終盤を迎え、国体も開催され、そちらに目がいってしまったと言っていいだろう。

世界選手権に携わる関係者は準備に多忙を極めていると想像されるが、情報発信があまりにも少ない。これでは関心を集めようにも集まらない。勝敗はともかく「日本に世界の強豪、スーパースターが集結する」この機会は、ハンドボールを盛り上げるまたとないチャンスである。これを逃す手はないと思うのだが、どうだろうか。もっともっと各大会が開かれる場を含めて、情報発信をして世間の注目を集める努力が必要ではなかろうか。

そうした中、今回の国内はもとより世界を駆け巡ったラグビーの24年ぶりの劇的な勝利は、実に驚きというしかあるまい。しかも「よくぞ」と感心したのが、同点に追いつくペナルティーキック選択でなく、あくまでも逆転狙ったトライだったことだ。ラストワンプレーに賭けた勇気ある決断だった。

2012年に就任した世界的な名声がある指揮官は、歴史を変える明確な目標を定めた。合宿では早朝から1日3度の練習を課し、鍛え上げた。さらに刻々状況が変わる試合では、指揮官の指示だけでなく、選手の判断力養成に重点的に取り組んだ。選手間での問題意識の共有だ。体力・体格差を埋めるための、日本人の特徴を前面に「強み」を築いた。言い訳でなく、もし敗れたとしても胸を張れる“戦う集団”で勝負を挑んだことが、新しい歴史を作ったのだろう。

ハンドボール界も見習う点は多い。奇跡を起こしたフィフティーンに負けず、新たな歴史づくりに何をすべきか　協会挙げて模索したいものである。



第23回
日・韓・中ジュニア交流競技会

最終順位		
男子	優勝	韓国
	2位	日本
	3位	済州
	4位	中国
女子	優勝	韓国
	2位	済州
	3位	日本
	4位	中国

期　日：2015年8月23日（日）－29日（土）　競技は25日（火）－27日（木）の3日間
競技会場：韓国・済州特別自治道　漢拏体育館

総監督　船木 浩久（全国高体連専門部委員長）

本競技会は、1993年日本の福島県で第1回大会が開催され、今回で23回目となりました。今回は韓国・済州特別自治道において8月23日（日）から29日（土）まで開催されました。日本選手団は11競技に242名、ハンドボール競技からは全国から選抜した選手28名、全国高体連専門部から役員5名の33名が参加しました。

8月22日（土）午後、男女別に直前合宿会場から東横イン中部国際空港本館オレンジサイドに移動し、夕方、指導者ミーティングがあり支給物品受取並びに明日からの行動等についての連絡がありました。

8月23日（日）ホテルを出発し、中部国際空港から済州国際空港へ空港から宿泊先のSKYPAR HOTELまでバスで移動しました。夕食後ミーティングを行い韓国での過ごし方・注意事項等の確認をしました。

8月24日（月）午前、競技会場となるHallim体育館に移動し練習しました。午後、済州特別自治道体育会館にて代表者会議・競技別指導者ミーティングが行われ、翌日からの試合方法・ユニフォーム等の確認がありました。夕方、Halla体育館で開会式、各国団長の挨拶、各国選手代表による宣誓がありました。オープニングとエンディングの国立チェジュ民族舞踊団歓迎の舞は素晴らしいものでした。

8月25日(火)からの試合は、Hallim体育館を会場に日本・韓国（韓国1位）・中国（中国1位）に開催地チーム（実際は男女とも韓国2位チーム、男子ハンナン高校、女子インチョン高校）を加え4チームの総当たりで行われました。男女とも一日目の韓国には負けました。二日目の開催地に女子は惜敗しましたが、男子は見事な逆転勝ちでした。三日目の中国には、男女とも快勝でした。成績は女子1勝2敗で3位、男子2勝1敗で2位に終わりました。なお、試合結果詳細については、監督・選手から別途報告があるので省略します。

28日（金）は、早朝から文化行事（Olympic day Run）に





参加し、海沿いを4㎞程歩き心地よい汗を掻きました。その後、文化探訪（バス移動中に朝食）でユネスコ世界遺産の日出峯に、火山跡と海、絶景でした。ホテルで昼食後Halla体育館でフレンドシップ交流会が開催されました。開催地ボランティアの企画により、3ヶ国選手団による人文字で五輪マークなどを完成させ交流を深めました。終了後は繁華街等でそれぞれの時間を過ごしていたようです。

29日（土）朝、ホテルを出発し、済州国際空港から中部国際空港へ昼過ぎに帰国しました。

今回、日本代表として参加した選手達は、男子、北中弘規監督・黒島宣昭コーチ、女子、本田眞吾監督・中山学コーチ指導のもと、如何に戦う集団になれるか、限られた短い時間の中で戦術や個人の役割等を確認しました。同じ目標に向かって練習することによって、短い期間でまとまりのある集団になってくれました。成績は残念な結果となりましたが、日本代表として恥ずかしくない戦いをしてくれたと思っています。今回も感じましたが、韓国の技術の高さ、体幹の強さは見習う必要があり、中国の大型化にも対応していかなければなりません。男女とも日本なりの強化がそして、アウェーの笛にも負けない精神的な強さが必要だと感じました。来年の中国開催に向け、結果が残せるように今後取り組んでいきます。選手は、この貴重な国際大会の経験を活かし、次の舞台で活躍してくれることを期待します。

大会の参加に際しては、4月に大阪での選考会、8月20日から2泊3日で男子は大同大学体育館にて、大同大学・愛知高校選抜と直前合宿、女子はトヨタ車体吉原工場体育館にて、中京大学・東海学園大学・大同大学と直前合宿を行いました。

最後になりましたが、直前合宿の会場を提供して頂きました大同大学・トヨタ車体吉原工場、並びに、選手を派遣頂いた各校の監督そして多大なるご支援とご協力を賜りました関係機関の皆様に心から感謝を申し上げます。今後とも、全国高体連活動へのご理解とご支援をお願いしまして大会参加報告と致します。



男子チーム監督　北中 弘規（石川県立翠星高校）

今年度の選手選考会は、4月18日（土）～19日（日）大阪府堺市家原大池体育館において行われました。大阪府高体連専門部の方々にご協力を頂き、各ブロックより推薦を受けた男子35名の参加となりました。体力測定・ゲーム・面接を通して、各ポジションの専門的技術・スピード・取り組む姿勢等を考慮し、選考委員の岩本 明（浦和学院）、飯田一郎（近江兄弟）、佐々木昌弘（近畿常任委員）、酒井信幸（高体連強化部）、北中の5名で代表選手14名を選考しました。

事前合宿は、8月20日（木）～22日（土）に大同大学（佐藤壮一郎先生）のご厚意で組むことができました。また、21日（金）の午後には、国体予選を終えたばかりの愛知選抜（川瀬秀一先生）も参加して頂きました。合宿は、高村誠一（前大同特殊鋼監督）、伊藤諭志（高体連東海ブロック長）様からの激励を頂き、日本代表としての心構え、ディフェンスシステム、チームのための個々の課題等を確認しました。個々の適性（ポジション）を探りながら、本番さながらの当たりの激しい練習試合を繰り返し経験させて頂きました。

■8月25日（火）

日本　25（12－23、13－12）35　韓国（第一高等学校）

初戦は、ユースメンバー3名を有する韓国第1位の第一高等学校との対戦。立ち上がりは、緊張のためかイージーミスで速攻等を許し、本来のペースを掴むことができず開始6分で7点連取され、流れに乗れない展開となった。山田（愛知）のポストシュートが決まり1対8。伊藤（四日市工）のミドル、土橋（愛知）のスタンディングが決まるが、10分で4対9。思わずタイムアウトを請求。その後、橋本（香川中央）の活躍もあり、15分過ぎから本来の動きを取り戻すが、前半12対23で11点のリードを許してしまった。タイムアウト時にディフェンスシステムを変えようか迷ってしまったことを反省し、後半は6：0ディフェンスで対応することを確認して望をつないだ。木本（神戸国際）を中心に山田、片岡（桃山学院）に3枚目を任せ、粘り強く守ってからの速攻の展開もできてきた。伊藤、橋本そして安井（高知中央）らが果敢に攻めてくれたが、前半の差を縮めることができないまま終了した。ベンチの判断ミスであった悔しい敗戦となった。しかし、後半は良い型になってきたので次の試合への確認ができた。

【得点】伊藤・橋本9、土橋3、安井・山田2

■8月26日（水）

日本　32（16－20、16－11）31　済州（南漢高等学校）

1日目の反省から、ミーティング通り6：0ディフェンスで対応する。土橋の先取点、橋本のミドルシュートでいいスタートを切ることができた。しかし、韓国のスピード豊かな1対1や上手いポストプレーを絡めての攻撃であっさり逆転され、12分には4対9と昨日の敗戦がよみがえったが、この日の選手たちには気迫が感じられた。下柳（北陽）の2連取、土橋から池本（偕成）へのスカイプレーも決まり、コート・ベンチが一つになる瞬間もあった。その後も一進一退の攻防が続き、4点リードされての折り返しとなった。後半も機能していたディフェンスシステムをなんとか粘り強く守っていけば必ず勝利できる、と黒島宣昭（興南高校）コーチの檄に奮起してチームは後半のスタートを切った。得点力のある橋本、伊藤にボールを集め、彼らにマークがきつくなる場面で安井、池本、山田らにボールを回して得点を挙げる展開となった。前半はタイミングが取れなかったGK陣もリズムを取り戻し、前田（洛北）のファインセーブも連発した。後半20分に28対28と追いつき、その後7分間無得点に抑え、ラスト2分31対29とした時は、久しぶりに韓国からの勝利を確信した。後半、退場者（5人）も多く出したが、選手たちは最後まで諦めず粘り強く守ってくれました。

【得点】橋本11、伊藤6、安井・池本3、土橋・下柳2、片岡・山田・ブルース1

■8月27日（木）

日本　29（14－12、15－13）25　中国

最終戦は、高さとパワーがあり個々の能力の高い選手をそろえる中国との対戦。日本はどれだけ守れるかがポイントとなるゲームが予想された。

韓国戦で6：0ディフェンスが機能してきたので、今日もそれらを確認した。立ち上がり12～13mからの強烈なロングシュートで度肝を抜かれたが、伊藤、橋本、土橋のバックプレーヤー陣が対抗する。木本、片岡を中心とする堅実なディフェンスから、池本、橋本、片岡らが速攻で確実に決め

るミスの少ない試合運びを展開した。しかし、パワーを誇る長身選手に対応が遅れ、いとも簡単に打ち抜かれ、前半をなんとか２点差リードで折り返すことができた。中国チームの強烈なロングシュートに対応する為に、ディフェンスラインを７～８ｍのやや高めに引き、巨漢のポストへは意識し過ぎずパスコースを潰すよう指示、確認した。GK の堅守にも助けられ、ディフェンスからリズムが出てきたCP 陣も橋本のスピード溢れるプレー、伊藤のミドル、阿部（学校石川）、土橋、池本、そしてパワフルシューター安井もステップシュートなどがことごとく決まった。今回得点に繋がらなかった選手（木本、早船〈洛北〉）もディフェンスでは頑張ってくれ、４点差で快勝することができた。とてもハードな戦いであったが、GK（柴田〈近江兄弟〉、前田）を中心に最後まで粘り強く守り、全員が一致団結した感のある勝利であった。

【得点】橋本 10、池本 5、土橋 4、伊藤・阿部 3、片岡・安井 2

最後に、選手全員が韓国・中国選手との対戦を経験することができました。また、韓国の文化にも触れる機会を持つことができたのも、彼らの人生の大きな経験値となり、次のステージでより一層活躍することを楽しみにして回顧とします。選考会費用・合宿費用をご負担頂き、大会期間中は韓国まで応援に駆けつけてくださいました保護者の方々、毎年選考会を開催して頂いています大阪高体連の方々、大同大学の佐藤先生を始め西インカレ終了直後にも関わらずお相手頂いた大学生の方々、急なお願いにも快く承諾して頂いた愛知選抜の川瀬先生、競技会に向け携わって頂いたハンドボール関係者の皆様方にこの場をお借りしまして感謝申し上げます。有り難うございました。

男子チーム主将　木本 惇貴（神戸国際大学附属高校）

この度、韓国・済州で行われた日韓中ジュニア交流競技会に日本代表として参加させていただきました。この大会で私はキャプテンとしてチームをまとめることを重要視し実践しました。

開催地選抜（仁川）の試合時は、タイムがかかったら円を作り情報交換をしたり、プレイ中であってもお互いに声を掛け合ったりと、とてもいい雰囲気でプレイできていました。前日の韓国戦ではミスが多く、会話も少なくチームがバラバラの状態でした。その反省として違った環境でハンドボールをしてきたメンバーを数日で調整し、それぞれの良さを引き出すためにはコミュニケーションをとりチームを一つにまとめることが大切だと思いました。その甲斐があって後半 15 分ほどまで４点差で負けていましたが、みんなで声を掛け合い、守って相手に点を許さず追いつき後半 25 分には勝ち越して 32 対 31 で勝利を収める事ができました。翌日の中国戦も勝利し日本は２位という結果を残しました。この大会を振り返ってみると改めてチームワーク、コミュニケーションの大切さを感じました。短い時間でありましたが、その中で多くのコミュニケーションを取れた事が２位という結果に結びついた要因だと思います。１位をとれなかったのは悔しいけれども、それ以上に貴重な体験をさせていただきました。この大会で学んだ事をこれからの自分のハンドボール人生に活かして行くと共に、監督の北中先生、コーチの黒島先生、ならびにこの大会に携わってくださったすべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。



男子チーム　柴田 康平（近江兄弟社高校）

８月 20 日に各地域から愛知の大同大学に集まり、大学生の方々と試合をさせていただきました。初めは連携があわず苦戦しましたが、少しずつ良くなって、韓国へ向かいました。23 日の韓国戦では、韓国の早いフェイントに日本の 3-2-1 ディフェンスは通用せず、前半だけでかなりの点差が開いてしまいました。韓国のハンドボールのレベルの高さに驚きました。後半は 6-0 ディフェンスを行って韓国チームに対抗しました。このディフェンスは機能し、韓国のチームからの攻撃を防ぐことに成功しました。徐々に日本も点数を取り出し、良い流れを形作れました。韓国に迫る時間帯もありましたが、最後は韓国に逃げきられてしまいました。24 日は、韓国の地元の済州高校と試合をさせていただきました。この試合で負けてしまうと、日本は２位以下が決定してしまいます。試合のスタートから皆、勝ちへの意識が高く、済州選抜にリードを許してしまう場面もありましたが、最後は逆転して逃げ切りで勝利することができました。25 日、このメンバーで試合をするのはこの日で最後でした。相手は中国で、これに勝てば２位が決定でした。この試合は、今までのどの試合よりもチームの雰囲気が良く、結果、オフェンスやディフェンスの連携もよく機能し、中国にリードを許すことなく、勝利を収めることができました。

約２週間だけのチームでしたが、とても良い経験ができました。海外のレベルの高さを肌に感じ、自分がまだまだ未熟だと良くわかりました。大学でもっと練習をして技術を磨き、世界に通用するレベルになりたいという気持ちが強くなりました。このメンバーで試合をすることはもうないかもしれませんが、次は、大学でライバルとなって試合ができることを楽しみにし、更にトレーニングに励みます。この２週間、気持ちよく、楽しく試合ができたのは、私達選手団を指導してくださった先生方や、韓国の通訳さんや、本部役員の方々のおかげでした。本当にありがとうございました。

女子チーム監督　本田 眞吾（神奈川県立上鶴間高校）

第23回日・韓・中Jr.交流競技会に際し、選手選考会を本年度4月18日（土）、19日（日）に行いました。参加人数男子33名、女子30名を対象とし、体力測定面接、基本技能、ゲームを行い、各14名を選考させていただきました。選考に当たりご理解、ご協力いただきました各学校の顧問の先生方、大阪高体連専門部佐々木委員長他、多くの専門部の先生方、選考にあたられた選考委員の先生方には厚くお礼申しあげます。

8月20日（木）から22日（土）で、愛知県豊田市トヨタ車体吉原工場体育で直前の合宿を行い調整いたしました。合宿では中京大学村上先生、東海学園大学斉藤先生、大同大学斉藤先生、そして、トヨタ車体の渡辺さんには会場使用やその他多くのご協力を頂き、大変お世話になり心より感謝申し上げます。

合宿では今大会を全員体制で臨むため、14名を2チーム体制とし、それぞれ特徴のあるチームとして、練習試合を通してチーム作りを行いました。特に傷害もなく無事合宿を終え、23日（日）の夕刻開催地韓国済州島に入りました。勝敗以外に多くの経験を積むことができた選手達にとっては今後のハンドボール人生に大きな影響をもたらす大会になったことと思います。

■8月25日（火）

日本（選抜）　27（13－17、14－16）33　韓国（濱池情報産業高校）

日本のスローオフから始まり、両チームともに硬さが目立った。開始1分半に韓国のセンタープレーヤーのカットインで谷が警告を受ける。その2分後土居が警告、7分には柴崎に警告が与えられこの時点で3枚出そろう。それでも、開始10分で3対4と1点差で韓国リード。そこからお互いリズムに乗り始めた観はあったが、前半は13対17と4点差でハーフタイムとなった。

後半に向けて気持ちの立て直しとプレーの確認をした。後半始まり5分で14対19とされ5点差となる。しかし、ここから韓国のミス、また谷の5点目のミドルシュート、GK中島の好セーブもあり、徐々にDFから速攻のリズムをつかみ始める。11分過ぎには20対23と3点差に迫るも、18分過ぎには谷が3回目の退場で失格となる。しかし、何とか吉岡の速攻で得点し、20分で24対26と2点差まで食らいついた。しかし、そこから3連取され、DF、OFともに精彩を欠き27対33で惜敗した。アウェイでの韓国との試合で緊張はあったが、決して引けを取るような戦いではなかったと思われる。フィジカル、メンタル面での強さ、プレーの精度の高さが求められると強く感じた。

【得点】土居・吉岡7、谷・馬場4、前田・柴崎2、小川1

■8月26日（水）

日本（選抜）　20（10－11、10－11）22　済州（仁川business高校）

昨日の韓国戦を引きずらないようにメンタル面の調整を行い試合に臨んだ。チームは仁川高等学校、韓国No.2が済州のチームとして選抜されたようだ。試合は、韓国戦とはメンバーを総入れ替えし臨んだ。開始直後3：1：2DFから谷口の速攻が決まるが、その後、シュートミスの連続でリズムが作れず10分で4対5となる。済州は日本のDFを攻めあぐねるも15分過ぎから得点を重ね20分で6対9と3点差となる。その後、メンバーを入れ替え、25分で9対10となる。お互いミスが多く前半は10対11で終了。

後半は始まりで追いつくところを、パスミス、シュートミスの連発で6分間得点なし10対13となる。11分に谷のミドルシュートで14対14の同点となるも、それ以降8分間得点なし、20分で15対18となる。そこから馬場のカットインシュート、前田のミドルシュートで食らいつき、残り2分で20対21。作戦タイムを取り勝ちに行ったが、力足りず20対22で惜敗した。韓国チームに対して作戦（変則DF）を試みたが、選抜チームでの練習量は時間に制限があり、難しいと思われる。が、内容は十分すぎるほどの結果を出せたと考えている。今後に向けて再度挑戦していきたい。

【得点】谷・馬場・前田4、野間3、谷口2、小川・吉岡・石川1

■8月27日（木）

日本（選抜）　33（17－10、16－11）21　中国（高等学校選抜）

試合立ち上がりは互角の戦いだった。中国は長身のNo.2のポストで得点をあげる。日本は土居のミドルシュートで得点。10分で5対5とした。しかし、その後中国は警告、退場があり日本が着実に得点を重ね25分で15対9とリード。中国は20分以降1点にとどまり前半17対10で終えた。後半、日本は全員出場、全員得点を目指し臨んだ。中国は13分までに10点を挙げ抗戦するも、その後は日本のDFに対して攻めきれず、また、GK榎の好セーブに阻まれ1点止まり、日本は、全員得点で後半16点を挙げ33対21で勝利した。中国チームとの戦いは、今大会では力の差があった。スピード、パワー、テクニックを考察すると、日本が中国を大きく上回っていたと考えている。

【得点】毛利6、野崎・前田・野間・吉岡4、土居3、石川・谷口2、小川・谷・馬場・柴崎1

女子チーム主将　前田 みのり（四天王寺高校）

私は、韓国で行われた日韓中ジュニア交流競技会に参加しました。代表メンバーで初めて練習をしたときは、それぞれが自分の得意なプレーをするため、なかなか息が合いませんでした。しかし、練習していく中で、声を掛け合い自分の考





えを伝えることで、少しずつ息が合うようになりました。

大会中、韓国・中国・済州の代表チームと対戦した中で、私は、韓国戦が一番印象に残っています。試合開始 10 分で警告が 3 枚も出されてしまい、近い間合いのフェイントが得意な韓国のパワーとスピードを体感すると同時に、どんな体勢からでもシュートを確実に決めるところが、日本チームとの差だと大きく感じました。結果は、6 点差で負けましたが、日本チームの長所である「守って速攻」を生かして、1 点差まで追いつく場面もありました。そのときは、コートの中もベンチも全員が一つになって大変盛り上がり、とても楽しく感じました。

いつもは、対戦相手である人たちが同じチームの仲間として戦うということは、とても良い刺激となり、貴重な経験をすることができました。短い間でしたが、中山先生、本田先生と 14 人で一つのチームとして戦えたことは、私にとって大きな財産となりたくさんのことを学ぶことができました。この大会を通して学んだことをこれからのハンドボール人生に活かしていきたいと思います。この大会に関わった全ての方々に感謝し、これからも頑張ります。本当にありがとうございました。

女子チーム　谷 栞里（香川県高松商業高等学校）

この度、韓国で行われた日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂き、多くのことを学ばせていただきました。

今回の大会では自分達の目標とはほど遠く 3 位という結果となってしまいました。今大会の反省は前半の立ち上がりだったと思います。どの試合も相手チームの流れで始まり日本が追いかけるゲーム展開となりました。DF で足が止まり日本の持ち味である速攻もなかなか決まらず苦しい試合ばかりでした。自分たちの流れになったときも退場や 7mT を外すなど、自分たちで流れを手放してしまいました。また、アウェーの厳しさに、チーム自体が集中できていなかった部分もありました。これから日本が勝ち上がるうえでこのような場面はあると思います。そういった場面でも日本の持ち味である速攻から流れを作り日本らしさを出せるようになる精神力が必要であることを感じました。

10 日間という短い期間でしたがチームメイトと一緒に過ごしたり OF、DF で初めての戦術をチーム内で話し合ったり、ミーティングをするなかでだんだんチームらしくなっていくのを肌で感じることができ、すごくよい経験をさせていただきました。

最後になりましたが、中山先生、本田先生、船木先生と 14 人でチーム一丸となり韓国、中国と戦うことができ大変貴重な体験をさせていただきました。今回の大会で学んだことをこれから活かしていけるようにしていきたいと思います。大会に関わっていただいた方々に感謝しこれからも頑張ります。ありがとうございました。



毎月1日・20日は
ゆめタウンデー
全館全品
ゆめカード
値引積立額
5倍
株式会社 イズミ
http://www.izumi.co.jp
本社/〒732-8555 広島市東区二葉の里三丁目3番1号 TEL(082)264-3211(代)



第7回日韓小学生ハンドボール親善交流会

期間：平成27年8月7日（金）～11日（火）
会場：山口県岩国市総合体育館
受け入れ先：IDBスポーツクラブ、岩国市ハンドボール協会・山口市ハンドボール協会

結果

8月9日（日）

女子・IDBクラブ	13	（8 － 5、5 － 13）	18	韓国・夢の木
男子・IDBクラブ	24	（13 － 5、11 － 10）	15	韓国・夢の木
女子・山口県選抜	17	（6 － 5、11 － 4）	9	韓国・夢の木
男子・山口県選抜	19	（11 － 3、8 － 9）	12	韓国・夢の木

所見

（公財）日本ハンドボール協会　普及委員長　**山本　繁**

（1）今年は、受け入れ4回目。今回から韓国チームは、優勝チームではなく、『夢の木』チームの5年生が派遣となった。『夢の木』は、韓国の『タレント発掘事業』の取り組みで、他の競技団体にもある。各競技団体ごとに募集・選抜試験・育成をしている。ハンドボールは、夏休み・冬休みの合宿をメイン活動に、その他短期の合宿を組み育成にあたっている。そして、5年生は日本遠征、6年生は欧州遠征を行っている。（今年度6年生は、6月クロアチアで開催された世界大会で、女子優勝、男子準優勝してきているとのこと。）
（2）韓国側は5年生ということもあり、今までの韓国らしいプレーがあまり見られなかった。（松ヤニが使用できないことも要因。）それに対し、山口県の2チーム（数人の選手は掛持ち）は、IDBのエースとキャプテン中心にパスがよく回り、豪快にミドルシュートを決めるなど、良い攻めを見せた。ディフェンスもしっかりしており、パスカットを連発してシュートも確実に決めた。女子も、IDBのフローター3選手がパスをよく回し、ロングシュート・カットインと、果敢に中央から攻めた。選抜チームは、サウスポーエースが右サイドポジションで正確なシュートを放ち、得点を積み重ねた。
（3）全般的にみて、韓国の指導は一貫しており、フットワーク、パスキャッチ、体全体の筋力等々の基礎的な技術、体力の徹底は、しっかりしている。韓国のコーチは、すべてライセンス制になっており、研修会も義務付けられている。小学生を指導する場合も同様である。

日韓親善交流会を終えて

IDBスポーツクラブ　**原田 美智子**

8月7日、団長・スタッフ8名、選手男女各20名、総勢48名の韓国選手団を迎え、心配していた言葉の壁を、笑顔いっぱいでいとも簡単に乗り越えた日韓子供達の、暑い夏の熱い親善交流が始まりました。夕刻の日本ハンドボール協会と山口県ハンドボール協会合同の歓迎レセプションでは、練習を重ねてきた子供達の賑やかなソーラン演舞で、おもてなしの心を表現しました。

8日・9日の午前中は、韓国の指導者による男女別の合同練習、期待と不安混じりの日本選手は、準備運動から見よう見まねで実践、延々と続くステップやフットワークの練習に戸惑い驚き、練習中途切れることのない元気な声の韓国選手に圧倒され続けながらも良い刺激を受け、子供達同士で教え合い学び合う姿に、小学生の日韓交流の意義と未来を担う子供達の大きな夢と可能性を感じました。午後からは、8日は交流試合、8日は親善試合で、IDBスポーツクラブと山口選抜の男女でゲームをしました。韓国選手は、松ヤニが使えないなど普段と違う環境の中でも、声を出し続けること、ボールの扱い方やシュートに向かう姿勢などから、ハンドボールと真剣に取り組む様子が伝わり、指導者も学ぶ場面が多くありました。今回の韓国指導者の方はみな有資格者で、韓国の中でトップを経験された方ばかりであること、日韓の文化の違いや子供達を取り巻く環境などのことも、達者な通訳の方のおかげで、指導者やスタッフも様々な情報を交換し、とても楽しくて和やかで幸せな親善交流の時を過ごさせていただきました。

9日の夜は、岩国市ハンドボール協会の歓迎行事の中で、日韓の子供達全員が衣装を着けて圧巻のソーラン演舞披露もあり、笑顔いっぱいの交流のひとときを過ごしました。10日は宮島観光にて、日韓の子供達が一緒になって班を作り班行動、水族館と島内観光やショッピングを楽しみ、錦帯橋を眺めながらの観光後、全員が一堂に会して日本での名残惜しい最後の晩餐となりました。日韓親善交流会は、人と出逢い心を交わすこと、チャレンジする勇気を持つことなど、今後の人生に活きる、言い尽くせないほどの素晴らしい宝物を私達に残してくれました。山口県として、ホスト役として、仲間が一つになれる機会をくださいました日本ハンドボール協会の方々をはじめ、すべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。コマウォヨ（ありがとうございました）。





● 男子キャプテン　竹下 晴日

ぼくは、日韓小学生ハンドボール親善交流会で二つのことができるようになりました。一つ目は、たくさんのステップです。ぼくは、最初できませんでした。けれどもやっているうちに段々できるようになりました。二つ目は、ボールを持っていない時も、声を出すことです。パスの練習をしている時に韓国の人はボールを持っていない時も声を出していました。それを見習ってやっていると自然に声が出るようになりました。

試合では、練習したことを生かし、当たり負けない事を志したいと思いました。このような事を生かし試合に取り組んだ結果、勝つことができたのでうれしく思いました。この日は、今までの動きより、いい動きができたのが良かったです。この経験を生かして、世界のチーム、また韓国のチームと戦えるようにがんばります。最後の宮島観光では、韓国の人とふれ合い、韓国語を少し覚えることができました。なにより韓国の人が喜んでくれたのがうれしかったです。

◆ 男子キャプテン保護者　竹下 律子

８月７日初日。歓迎レセプションが終わり解散するときには、初対面の子供たちが一緒になって遊んでいる、微笑ましい光景から交流会がスタートしました。子供たちの順応性の高さには驚きました。２日目からの合同練習では、韓国コーチの指導のもと、たくさん習得することがあったと思います。コートいっぱい時間をかけて、足腰を使った基礎練習をすることで筋力をつけ、ケガをしない身体を作ることが大切だとわかりました。

パス、パスキャッチの重要性を意識した練習が、すべて次の動きにつながるということ。大きな声を掛け合って、チームが一つになるという魅力も感じ取ったようです。最終日。宮島観光では、グループ７人が行動することでコミュニケーションをとり、チームに良いコンビネーションが生まれることを学んだことでしょう。

全国大会と日韓交流会に向けて、新チームになってから、たくさん練習をしてきました。交流試合では強い韓国選抜チームに対する心がけを忘れず、いい試合ができたと思います。この夏、大好きなハンドボールを通して、〝国際交流〟という貴重な体験を与えて下さった、日本ハンドボール協会をはじめとする様々な方々に深く感謝しております。本当にありがとうございました。

● 女子キャプテン　林 千尋

私は、韓国のチームと交流をして良かったと思いました。一つ目は、山口選抜でやれた事です。理由は、IDBだけで韓国と戦わずに、レインボーさん、リトルさんと一緒に戦えたからです。韓国のチームが来るまでの間に、たくさん練習をしていく中で互いに良い所、悪い所を見つけ合い、ともに悪い所を直してきたりして絆が深まったからです。二つ目は、韓国の人と仲良くなれた事です。理由は、初めて会った人と仲良くなれるかなと思ったけれども、韓国の人は優しくておもしろくてすぐに仲良くなれました。それに、一緒にハンドボールをやれるなんてとても嬉しかったです。三つ目は、韓国の人は、どんな時でも声を出す事です。理由は、韓国の人は、練習でも苦しくても一人一人大きな声を出して盛り上げていくからです。私は、韓国の人みたいに一人一人が声を出し、試合でも練習でも、苦しくても盛り上げていきたいです。私は、日本のチームとしか戦った事がなかったので、韓国のチームと戦う事ができてとても良い経験になりました。次の大会でも、韓国と試合をした事を忘れずにがんばりたいです。

◆ 女子キャプテン保護者　林 純子

今回の日韓親善交流会は子供達にとって良い経験になりました。まず交流会に向け選抜チームが組まれた事、日頃対戦する子と同じチームメイトとなり一緒に練習する事は良い刺激になりました。暑い中での練習でしたがお互い励し合い、相手の良いプレーを学び自分の悪い所を見直す機会になったと思います。約１ヶ月の選抜練習が終わり、日韓親善交流会を迎えました。5日間のうち２日間が午前中日韓合同練習、午後は試合でした。合同練習は韓国指導者の下、１時間以上のストレッチから始まりダッシュなど基礎中心のメニューで、子供達にはハードな内容でしたが基礎が大事という事を改めて感じました。午後からの試合、韓国チームは試合時や監督の指示を受ける時など声だし、返事が大声で素晴らしいなと思いました。

子供達にとってプレーで学ぶこと以外に声出しなど基本的な事を見直す時間になったと思います。レセプションや宮島観光は言葉が上手く通じなくても子供達なりに親交を深め、楽しい時間を過ごす事ができました。今回の日韓親善交流会を通じてそれぞれが学んだ事、感じた事を今後に生かせれば良いなと思います。最後になりましたが、日韓親善交流会の開催に際し、日本ハンドボール協会の方々をはじめ関係者の方々、IDB監督・コーチ・スタッフの皆様、ご尽力を頂き本当にありがとうございました。

スコアルーム①

第20回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

開催期日：2015年8月9日（日）〜8月12日（水）
会　　場：岩手県・花巻市総合体育館ほか

【男　子】

▼１回戦

FOG（千葉）	35	（16−10、19−17）	27	高山HC（岐阜）
金沢市役所HC（石川）	27	（10 11、17 14）	25	HC神戸（兵庫）
セキュリティ（岡山）	30	（17−12、13−15）	27	山形新球会HC（山形）
FST（東京）	24	（14−10、10−13）	23	B.1.C（沖縄）
HC岩手（開催地）	44	（25−12、19−13）	25	H.B.C（山梨）
EHC（愛媛）	34	（17 12、17 11）	23	HC彦根（滋賀）
福島SGクラブ（福島）	35	（17−17、18−15）	32	徳山クラブ（山口）
トヨタ紡織九州レッドインパルス（佐賀）	34	（16−12、18−15）	27	渡辺組（神奈川）
HONDA（三重）	25	（11−13、14−6）	19	宮崎フェニックス（宮崎）
香川クラブ（香川）	28	（14−12、14−12）	24	桜門クラブ（東京）
チーム群馬（群馬）	32	（12−9、20−18）	27	不来方クラブ（岩手）
HC和歌山（和歌山）	41	（21−3、20−7）	10	北志クラブ（福井）
大同クラブ（愛知）	27	（11−16、16−8）	24	HC岡山（岡山）
埼玉クラブ（埼玉）	34	（19−13、15−10）	23	小松クラブ（石川）
湖陵クラブ（北海道）	27	（15−14、12−11）	25	湯沢HC（秋田）
長崎社中（長崎）	24	（12−10、12−9）	19	SOCIO OSAKA（大阪）

▼２回戦

FOG	38	（17−8、21−11）	19	金沢市役所HC
FST	46	（23−10、23−11）	21	セキュリティ
EHC	32	（15 12、17 14）	26	HC岩手
トヨタ紡織九州レッドインパルス	39	（17−9、22−16）	25	福島SGクラブ
HONDA	35	（16−9、19−10）	19	香川クラブ
HC和歌山	50	（23−13、27−8）	21	チーム群馬
大同クラブ	32	（14−8、18−7）	15	埼玉クラブ
長崎社中	37	（17−6、20−5）	11	湖陵クラブ

▼準々決勝

FOG	27	（15−10、12−8）	18	FST
トヨタ紡織九州レッドインパルス	26	（12−10、14−12）	22	EHC
HC和歌山	29	（17−11、12−15）	26	HONDA
長崎社中	26	（14−8、12−15）	23	大同クラブ

▼準決勝

FOG	25	（16 15、9 9）	24	トヨタ紡織九州レッドインパルス
HC和歌山	32	（13−15、10−8） （1−0 延長 3−4） （5 7mTC 3）	30	長崎社中

▼３位決定戦

トヨタ紡織九州レッドインパルス	23	（13 6、10−9）	15	長崎社中

▼決　勝

HC和歌山	32	（10−13、12−9） （5 3延一0−2）（2−1延二3 2）	30	FOG

【女　子】

▼１回戦

香川銀行T・H（香川）	58	（29−15、29−6）	21	サンライズ・ひきの接骨院鍼灸院HC（群馬）
HC岡山（岡山）	25	（15−10、10−14）	24	JJ GANG（福井）
かながわガビアーノ（神奈川）	30	（17−8、13−13）	21	古川HC（宮城）
那覇西クラブ（沖縄）	34	（18−6、16−6）	12	高山クラブ（岐阜）
GET"S（兵庫）	23	（10−9、13−8）	17	小松クラブ女子（石川）
白梅三英芙会（開催地）	35	（21 12、14 10）	22	茨城鬼怒girls（茨城）
コスモスビッキーズ（大分）	30	（14−11、16−7）	18	べにばなクラブ（山形）
HC和歌山（和歌山）	35	（16−10、19−4）	14	埼玉・白小鳩（埼玉）

▼準々決勝

香川銀行T・H	35	（16−5、19−4）	9	HC岡山
那覇西クラブ	34	（14−16、20−9）	25	かながわガビアーノ
GET"S	19	（12−4、7−10）	14	白梅三英芙会
HC和歌山	30	（19−6、11−10）	16	コスモスビッキーズ

▼準決勝

香川銀行T・H	35	（17−8、18−8）	16	那覇西クラブ
HC和歌山	29	（16−8、13−6）	14	GET"S

▼３位決定戦

那覇西クラブ	21	（8−8、13−11）	19	GET"S

▼決　勝

香川銀行T・H	29	（14 5、15 9）	14	HC和歌山

スコアルーム②

第42全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

開催期日：2015年8月20日（木）〜8月21日（金）
会　　場：熊本県・八代市

▼１回戦

徳山高専	22	（7−6、15−10）	16	久留米高専
東京高専	29	（13−9、16−10）	19	香川高専
北九州高専	21	（13−7、8−12）	19	明石高専
函館高専	30	（14−10、16−10）	20	石川高専
大阪府大高専	19	（10−8、9−10）	18	熊本高専
金沢高専	25	（10−5、15−6）	11	秋田高専
米子高専	29	（16 8、13 15）	23	一関高専
豊田高専	24	（13−6、11−9）	15	有明高専

▼準々決勝

徳山高専	35	（15−6、20−10）	16	東京高専
北九州高専	22	（12−8、10−12）	20	函館高専
金沢高専	16	（8−4、8−11）	15	大阪府大高専
米子高専	20	（9−6、11−12）	18	豊田高専

▼準決勝

北九州高専	23	（9−4、14−9）	13	徳山高専
金沢高専	23	（11−5、12−10）	15	米子高専

▼決　勝

金沢高専	24	（12−7、12−9）	16	北九州高専

堂々完結!!
明日のない空
Natsuko Horiuchi presents
堀内夏子
全3巻
大好評発売中!
青春と涙のハンドボール群像劇!!
定価／各550円（税込） 発行／小学館
http://comics.shogakukan.co.jp/ TEL 03-5281-3556

スコアルーム③

第44回全国中学校大会

開催期日：2015年8月21日（金）～8月24日（月）
会　　場：岩手県・花巻市

【男子】

▼1回戦
光成（北海道）25（14－8、11－13）21 水海道西（茨城）
岩国（山口）26（14－11、12－13）24 戸塚西（埼玉）
大体大浪商（大阪）31（15－17、16－12）29 神森（沖縄）
豊中第一（大阪）27（16－12、11－8）20 羽津（三重）

▼2回戦
西條（富山）32（14－9、18－16）25 光成（北海道）
大住（京都）26（13－9、13－12）21 桜田（愛知）
菰野（三重）22（11－10、11－9）19 滝尾（大分）
岩国（山口）31（9－13、15－11）27 大宮（岩手）
（2－0 延長 5－3）
香川第一（香川）19（8－8、11－9）17 大体大浪商（大阪）
板津（石川）28（15－8、13－6）14 岐陽（山口）
矢巾（開催地）35（15－10、20－13）23 市川（千葉）
豊中第一（大阪）30（12－17、18－12）29 松橋（熊本）

▼準々決勝
西條 34（16－13、18－14）27 大住
岩国 26（13－12、8－9）24 菰野
（1－1 延長 4－2）
板津 26（13－11、13－13）24 香川第一
矢巾 26（10－8、16－11）19 豊中第一

▼準決勝
西條 32（16－11、16－7）18 岩国
矢巾 26（13－14、13－9）23 板津

▼決勝
西條 40（21－11、19－21）32 矢巾

【女子】

▼1回戦
岩国（山口）15（8－7、7－7）14 滝ノ水（愛知）
大住（京都）31（11－11、13－13）30 岩崎（神奈川）
（2－2 延長 1－1）
（4 7mTC 3）
港川（沖縄）23（12－8、11－6）14 上（奈良）
氷見十三（富山）22（10－10、12－9）19 鶴城（熊本）

▼2回戦
明倫（福井）24（10－5、14－10）15 岩国（山口）
松橋（熊本）22（8－10、14－10）20 三郷北（埼玉）
朝明（三重）23（10－10、13－11）21 厨川（岩手）
大住（京都）26（13－12、13－11）23 今治東（愛媛）
平針（愛知）21（9－7、12－8）15 港川（沖縄）
矢巾北（開催地）28（14－11、14－10）21 凌雲・光成（北海道）
平田（山口）21（7－4、14－7）11 深草（京都）
東久留米西（東京）21（10－6、11－12）18 氷見十三（富山）

▼準々決勝
明倫 24（11－7、13－11）18 松橋
朝明 30（12－17、12－7）29 大住
（3－3 延長 3－2）
平針 19（10－6、9－7）13 矢巾北
平田 22（9－9、13－11）20 東久留米西

▼準決勝
明倫 31（19－11、12－14）25 朝明
平田 14（6－5、6－7）13 平針
（1－0 延長 1－1）

▼決勝
明倫 24（15－8、9－11）19 平田

スコアルーム④

第17回全日本ビーチハンドボール選手権大会

開催期日：2015年8月22日（土）～8月23日（日）
会　　場：愛知県・南知多町

【男子】

▼予選Aブロック
日体A 2（28－7、18－7）0 新日鐵住金名古屋
日体A 2（22－8、30－1）0 HC KUMASAN
新日鐵住金名古屋 2（10－8、14－6）0 HC KUMASAN

▼男子Bブロック
東海Weeds! 2（18－10、20－8）0 日体B
東海Weeds! 2（19－13、19－11）0 MJクラブ
日体B 2（6－14、13－7、12－10）1 MJクラブ

▼1回戦
日体B 2（25－9、17－10）0 HC KUMASAN
MJクラブ 2（18－8、16－4）0 新日鐵住金名古屋

▼準決勝
日体A 2（18－12、18－16）0 日体B
MJクラブ 2（24－20、12－14、8－6）1 東海Weeds!

▼決勝
日体A 2（22－16、22－24、8－4）1 MJクラブ

【女子】

▼予選リーグ
日体大 2（8－6、15－7）0 SHINE
日体大 2（14－2、12－3）0 東海Weeds!
ハミングバード 2（12－11、6－11、2－0）1 日体大
SHINE 2（15－13、15－9）0 ハミングバード
SHINE 2（17－3、17－6）0 東海Weeds!
ハミングバード 2（6－5、10－6）0 東海Weeds!

▼準決勝
SHINE 2（10－6、19－3）0 ハミングバード
日体大 2（18－11、13－6）0 東海Weeds!

▼決勝
日体大 2（12－14、14－12、5－2）1 SHINE

●イベント
・表彰
・記念式典
・各種セミナー
・各種パーティー
・国際会議

●業務渡航
・海外航空券手配
・海外ホテル手配
・査証手続き
・トラベルサポート

●教育・研修旅行
・修学旅行
・語学研修
・ホームステイ
・各種体験学習
・ゼミ・各種合宿

●団体旅行
・社員旅行
・インセンティブ旅行
・視察旅行・研修旅行・海外スポーツ遠征
・国内スポーツ合宿
・貸切バス・周年旅行

●訪日外国人旅行
・公官庁主催招聘プログラム手配
・訪日されるお客様に合わせたプラン

AMOK Enterprise co.,ltd.
株式会社 エモック・エンタープライズ
観光庁長官登録一種旅行業1144号 （社）日本旅行業協会（JATA）正会員
●東京本社
〒105-0003 東京都港区西新橋1-19-3 第2双葉ビル2F TEL 03-3507-9777 FAX 03-3507-9771
●大阪支店
〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-8 タイリンビル7F TEL 06-6203-7999 FAX 06-6203-7991
http://www.amok.co.jp/

▶日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」回覧簿◀

全国のクラブ・部活動でハンドボールをプレーしている皆さん！　日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」（本誌）をぜひ仲間と共に読んでみてください。代表監督・選手のコメント、各種大会の結果報告、海外情報など、きっと皆さんのハンドボールライフに役に立つ情報が掲載されているはずです！

閲覧者	1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25	26

【お詫びと訂正】10月号（No.554）「第66回全日本高等学校選手権大会」の男子準決勝の戦評（p.22）におきまして誤りがございました。藤代紫水と北陸が入れ替わり、北陸が勝者の表記となっておりました。
正しくは、「藤代紫水（茨城）　33（18－12、15－19）31　北陸（福井）」となります。お詫びして訂正いたします。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【茨城】宮川　陽【東京】執印麻樹、田島雅史、土田　健、平賀とみ子【神奈川】種村明彦【福井】柴田俊之、田中晴美【静岡】安野順一【愛知】田中基明、小林美夏、岡山尚司、岡山美恵子、牧野千別【大阪】宮崎　寛【兵庫】中野雅介、中野聖子、中野秀祐、中野主博【和歌山】大橋吉次【広島】青戸克好【香川】黒川　稜

【11月の行事予定】

【会議】……………………………………………………
11月14日(土)　常務理事会
【大会】……………………………………………………
11月7日(土)～11日(水)
高松宮記念杯男子57回女子50回全日本学生選手権
…………………………………　（北海道・函館市）
11月14日(土)～27日(金)
リオデジャネイロ五輪男子アジア予選（カタール・ドーハ）
11月14日(土)～
第40回日本リーグ…………　（男子レギュラーシーズン）
11月21日(土)～22日(日)
第13回日本車椅子競技大会…………　（徳島県・鳴門市）

HAND BALL CONTENTS Nov.

molten
For the real game
Official Partner of IHF

molten
For the real game

国際ハンドボール連盟公式試合球

IHF OFFICIAL GAME BALL



[3号球] 品番 H3X5001-BW ¥8,200(本体価格)+消費税
[2号球] 品番 H2X5001-BW ¥8,000(本体価格)+消費税
国際公認球 検定球 人工皮革 縫い ブルー×ホワイト ラテックスチューブ

www.molten.co.jp









代表取締役　青木 理恵



販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。
この秋自社ブランド『YURIKA ROSE』（ユリカ ロゼ）シリーズ第三弾を分譲し、次なる物件・第四弾も控えております。
今後も邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202
TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188



（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第五五五号

平成二十七年十月二十六日印刷
平成二十七年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　代表〇三ー三四八一ー二三六一
振替　〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間一三二〇〇円